

平成 30 年度 文部科学省
専修学校による地域産業中核的人材養成事業

学び直し講座による潜在看護師の復職支援モデル事業

成 果 報 告 書

平成 31 年 3 月
学校法人桜水会 土浦看護専門学校

目 次

1	事業概要	1
1.1	事業の趣旨・目的等について	2
1.1.1	事業の趣旨・目的	2
1.1.2	学習ターゲット・目指すべき人材像	3
1.2	事業背景	3
1.2.1	看護師の2025年問題と潜在看護師	3
1.2.2	看護師等免許保持者の届出制度と潜在看護師の復職支援の課題、学び直しが進んでいない原因	4
1.2.3	潜在看護職員の学び直しニーズ	4
1.2.4	eラーニングを活用した学び直し講座の必要性	5
1.3	事業実施	6
1.3.1	実施体制	6
1.3.2	実施内容	6
2	調査報告	11
2.1	調査概要	12
2.2	【調査①】看護師を対象としたアンケート調査	13
2.2.1	調査仕様	13
2.2.2	調査結果	15
2.3	【調査②】医療職向けの研修に関する事例調査	77
2.3.1	調査仕様	77
2.3.2	調査結果	78
2.4	調査総括	118
3	開発報告	119
3.1	開発概要	120
3.1.1	学び直し講座の概要	120
3.1.2	学び直し講座の構成	121
3.2	学び直し講座開設のための検討	122
3.3	モデルカリキュラム開発	124
4	まとめ	135

4.1	今年度事業の成果	136
4.2	次年度以降の計画	137
4.2.1	平成 31 年度事業計画	137
4.2.2	平成 32 年度事業計画	138

1 事業概要

1 事業概要

1.1 事業の趣旨・目的等について

1.1.1 事業の趣旨・目的

団塊の世代が後期高齢者となる 2025 年には、3～13 万人の看護職員が不足するといわれている（2025 年問題）。一方、看護師国家資格を持ちながらその職に就いていない潜在看護職員は約 71 万人いるとされている。この潜在看護職員の 1～2 割が復職すれば 2025 年の不足分は充当される。しかし、現状では、看護師等免許保持者の届出制度は十分に機能しているとは言えない。そのために、復職意欲を喚起したり、各種研修への参加を促したりする働きかけが十分になされてはならず、復職のための学び直しも進んでいるとは言えない。

そこで、本事業では、平成 30 年度からの 3 年間をかけて、専門学校と病院・福祉施設や関連団体との連携体制により、e ラーニングを活用した学び直し講座を通して、潜在看護職員の復職を支援するモデルを構築し提案する。この学び直し講座では、復職意欲のある潜在看護職員の掘り起こしから、看護知識の確認や職業意識等の醸成、キャリア形成等の学び直し、

さらには復職の支援までを一貫して提供する。この潜在看護師の復職支援モデルを継続的にかつ他地域へも広域的に展開していくことで、潜在看護師の円滑な復職やキャリア形成を支援し、2025 年問題の解消に貢献する。

1.1.2 学習ターゲット・目指すべき人材像

出産や育児等により休職中の潜在看護師を対象として、復職意欲を喚起し、身に付けている看護の基礎知識と専門技術を基に自らのキャリアプランを明確にして、病院や施設での中核人材として活躍できる看護師を育成する。

1.2 事業背景

1.2.1 看護師の 2025 年問題と潜在看護師

厚生労働省によると、平成 28 年末時点における看護職員（保健師・助産師・看護師・准看護師）の就業者数は、約 166 万人となっている。団塊の世代が後期高齢者となる平成 37 年（2025 年）には、看護職員は 196 万人～206 万人必要であるとされている。就業者数は年間平均 3 万人で推移しているが、このペースで今後増加していても、平成 37 年には 3 万人～13 万人が不足すると考えられている¹。

一方、看護職員の国家資格を保持していながらその職に就いていない者、即ち潜在看護職員は、平成 22 年末時点で約 71 万人いるとされている²。この潜在看護職員の 1～2 割が復職すれば、平成 37 年の不足数をカバーできる。

¹ 厚生労働省 看護職員確保対策

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000095525.html> 平成 30 年 6 月閲覧

² 厚生労働省 看護師等免許保持者の届出制度

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000095486.html> 平成 30 年 6 月閲覧

1.2.2 看護師等免許保持者の届出制度と潜在看護師の復職支援の課題、学び直しが進んでいない原因

看護職員のうち就業している者については、2年に1度、「業務従事者届」が保健師助産師看護師法に基づき義務付けられている。ところが、就業していない者、即ち、潜在看護師についてはその実態を把握する仕組みがなかった。そこで、平成27年10月1日に改正・施行された「看護師等の人材確保の促進に関する法律」により、潜在看護職員は連絡先等の情報を、都道府県の「ナースセンター」に届け出ることが努力義務と定められた。これにより、都道府県ナースセンターは、届け出られた情報をもとに潜在看護職員とつながりを保ち、求職者になる前の段階から、個々の状況に応じて復職への働きかけを行うことができるようになった。

この届出制度による届け出がなされた人数は、届出制度が始まった平成27年10月から11月の2ヵ月間で合計5,441人となっている³。このことから、潜在看護職員の数に比べて届出数が少なく、都道府県ナースセンターによる個々の状況に応じた復職への働きかけは十分に効果を発揮していないと言える。さらには、この復職への働きかけに復職のための学び直しも含まれることも予想される。即ち、潜在看護職員の届出制度が十分に機能していないため、学び直しも進んでいないということが考えられる。

1.2.3 潜在看護職員の学び直しニーズ

ここで、潜在看護職員の学び直しに関するニーズについて確認しておきたい。宮崎県の西諸地域（小林市、えびの市、高原町）を対象とした地域を限定した調査ではあるが、学校法人宮崎総合学院が平成27年度文部科学省 成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進事業 「看護師の新しい職域に参画する女性の学び直しキャリア教育プログラムの開発と実証」において実施した看護師に対する復職・キャリアアップ等に関する意識調査によると、離職経験のある看護師が復職する際にあると良いと思う支援の内容について、「専門技術の再訓練」（128件）、「復職支援について相談できる相手の設定」（122件）が多く回答されている（回答総数399件、上位2つまで回答）。このことから、潜在看護職員のニーズに合った教育環境が十分でないこと、及び、復職に関する相談相手が身近に少ないことがわかる。これも、潜在看護職員の学び直しが進んでいない原因として考えられる。

³ 厚生労働省 看護職員確保対策について http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-10801000-Iseikyoku-Soumuka/0000107369_11.pdf

1.2.4 e ラーニングを活用した学び直し講座の必要性

先述のような課題解決のために、e ラーニングを用いた時間・場所にとらわれない学習環境と、集合学習や SNS によるコミュニティ機能によって学習内容や復職に関することなどを自由に相談し合える環境とを組み合わせた学び直し講座により、復職意欲の喚起から専門知識・スキルの向上、復職やキャリア形成支援までを一貫して行う取組が必要となる。

そこで本事業では、現場復帰意向のある潜在看護師の円滑な復職を支援する教育プログラムを開発・実施し、専門学校が潜在看護師の掘り起こしと女性の社会参画を促進するモデルを提案することを目指した。

1.3 事業実施

1.3.1 実施体制

本事業では、以下のような構成機関からの参画者により実施委員会を組織し、事業を推進した。

構成機関	役割	都道府県
学校法人桜水会 土浦看護専門学校	事業統括	茨城県
学校法人宮崎総合学院 小林看護医療専門学校	調査・開発	宮崎県
学校法人西野学園 札幌医学技術福祉歯科専門学校	調査・開発	北海道
一般社団法人北九州市小倉医師会 北九州市小倉看護専門学校	調査・開発	福岡県
医療法人社団桜水会 筑波病院	調査・実証	茨城県
公益社団法人取手市医師会 取手北相馬保健医療センター医師会病院	調査・実証	茨城県
社会医療法人社団蛍水会 名戸ヶ谷病院	調査・実証	千葉県
社会医療法人若竹会 つくばセントラル病院	調査・実証	茨城県
医療法人聖和会 つくば病院	調査・実証	茨城県
公益社団法人茨城県看護協会	評価	茨城県
一般社団法人日本環境保健機構	評価	東京都
一般財団法人福祉教育支援協会	評価	埼玉県
株式会社東京リーガルマインド	開発	東京都
メディカル・ソリューションズ・ジャパン	開発	福岡県

図表 1 実施委員会構成機関

1.3.2 実施内容

本事業では、以下の取組を実施した。

○実施委員会

○調査

- ①看護師を対象としたアンケート調査
- ②医療職向けの研修に関する事例調査

○開発

- ①学び直し講座開設のための検討

②モデルカリキュラム開発

以下、各取組の概略について報告する。

1.3.2.1 実施委員会

本事業では、実施委員会を3回開催した。

(1) 第1回実施委員会

第1回実施委員会は、平成30年10月29日に開催した。報告、討議内容は以下の通りである。

- ・事業計画説明
- ・実態調査概要説明
- ・意見交換

アンケートについて、復職者や離職者への質問を吟味すべきとの意見があった。また、受講対象者のニーズに合わせたカリキュラムを設定する必要性を指摘する意見もあった。

(2) 第2回実施委員会

第2回実施委員会は、平成31年2月5日に開催した。報告、討議内容は以下の通りである。

- ・実態調査結果報告
- ・実施モデル検討
- ・カリキュラム構成案
- ・意見交換

実施モデルに関しては、毎週の講座実施ではなく、各州の実施も検討すべきとの指摘があった。また、講座の時間ありきではなく、アンケート調査の結果を踏まえてカリキュラムに必要な内容を積み上げ、時間を設定すべきとの意見もあった。

(3) 第3回実施委員会

第3回実施委員会は、平成31年3月12日に開催した。報告、討議内容は以下の通りである。

- ・成果報告
- ・意見交換

今年度事業全体について、成果報告を行った。開発した実施モデルやモデルカリキュラムに関しては、今年度の開発成果を一つの案として、次年度以降、更に検討して精度を高めていくことで承認を得た。

1.3.2.2 調査

調査①：看護師を対象としたアンケート調査

- 【調査目的】 看護師を対象として学び直し講座の受講ニーズを明らかにするとともに、潜在看護師が復職する上で必要としている支援内容を明らかにする。
- 【調査対象】 茨城県内の病院・福祉施設・その他の施設に勤務する看護師及び離職中の潜在看護師 300 名。
- 【調査手法】 茨城県内の病院に調査票を配布し、回答を依頼。
- 【調査結果】 241 名から回答。回収率 80.3%。以下結果の概要。
 - 復職する際に希望する支援内容では、「専門技術の再訓練」「現代医療事情の講義」「復職支援について相談できる相手の設定」が多く回答されていた。
 - 復職のために受講するのが望ましい講座では、「倫理学」「看護をめぐる法律と制度（最近の動向）」「医療安全、感染対策」「フィジカルアセスメント」が多く回答されていた。
 - 復職のために受講する講座の形式では「講義形式」が多く、受講しやすい曜日では「月～金（平日）」、受講しやすい時間帯では「午前中」を希望する回答が多かった。また、1 日当たりの学習時間では「1 時間」と「2 時間」が、1 週間当たりの受講日では「2 日」、受講期間は「1 ヶ月」の希望が多かった。

調査②：医療職向けの研修に関する事例調査

- 【調査目的】 医療職向けに実施されている研修の事例を収集し、研修の方式や受講者のサポート方法などについての参考資料とする。
- 【調査対象】 全国で実施されている医療職（看護師に限定しない）向けの研修事例。
- 【調査手法】 インターネットや文献等を用いる。
- 【調査結果】 20 件の事例を収集。以下結果の概要。
 - 研修の方式は、「講義」や「グループワーク」が多い。「演習」「実習」を行

っているものもある。

○e ラーニングを使用しているものは 1 件で、研修の様子を撮影した映像を使用している。

○受講者のサポートは、メールアドレスが記載されているものもあるが、電話番号が記載されているものが殆ど。電話によるサポートが中心と思われる。

1.3.2.3 開発

開発①：学び直し講座開設のための検討

【目的】 潜在看護師の復職支援モデルとなる学び直し講座を開設するために整理が必要な項目について検討し、実施モデルとして構築する。

【概要】 受講者募集方法、講座の期間、集合学習の曜日・時間帯、e ラーニングのプラットフォーム、復職支援方法等の項目について検討し、1 つのモデルとして整理した。

開発②：モデルカリキュラム開発

【目的】 学び直し講座で実施する教育内容や教育計画を明確にするために、カリキュラムの構成を検討し、コマシラバスの形で整理する。

【概要】 1 項目を e ラーニングによる知識学習と、ピアミーティングとケーススタディからなる集合学習とで構成し、全 8 項目を設定した。1 項目の学習時間は、知識学習が 4 時間程度、集合学習が 3 時間程度で、全 56 時間となる。運用方法としては、1 週間に 1 項目を実施して 8 週間で行うパターンと、2 週間で 1 項目を実施して 16 週間で行うパターンとを想定している。

2 調査報告

2 調査報告

2.1 調査概要

本事業では、潜在看護師の復職支援モデル（社会人学び直し講座の実施モデル）の構築に先立ち、それに資する2つの調査を行った。

【調査①】看護師を対象としたアンケート調査

【調査②】医療職向けの研修に関する事例調査

【調査①】は、看護師を対象として学び直し講座の受講ニーズを明らかにするとともに、潜在看護師が復職する上で必要としている支援内容を明らかにすることで、実施モデルを構築するための参考資料とするためのものである。一方、【調査②】は、医療職向けに実施されている研修の事例を収集し、研修の方式や受講者のサポート方法などについての参考資料とするためのものである。

【調査①】は、茨城県内の病院に調査票を配布する形で実施した（調査対象 300 名、回

収数 241 名、回収率 80.3%)。一方、【調査②】は、医療職向けに実施されている研修の事例をインターネット等によって収集し、整理した。収集数は 20 件である。

次節以降、この 2 つの調査について報告する。

2.2 【調査①】看護師を対象としたアンケート調査

【調査①】は、看護師に対する復職支援に関するニーズ調査である。この調査仕様・調査内容・調査結果を以下に報告する。

2.2.1 調査仕様

まず、本調査の目的・対象・手法等の仕様は以下の通りである。

調査名	看護師を対象としたアンケート調査
調査目的	看護師を対象として学び直し講座の受講ニーズを明らかにするとともに、潜在看護師が復職する上で必要としている支援内容を明らかにする。
調査対象	茨城県内の病院・福祉施設・その他の施設に勤務する看護師及び離職中の潜在看護師 300 名 →回答数 241 件（回収率 80.3%）
調査手法	茨城県内の病院に調査票を配布し、回答を依頼

図表 2 【調査①】調査仕様

次に、本調査の質問項目概要は、以下の通りである。

1 回答者属性	
1.1	年齢
1.2	資格区分
1.3	実務経験年数
1.4	勤務先の種類
1.5	看護職の所属区分

1.6	雇用形態
1.7	転職回数
1.8	転職先の都道府県
2 看護師の離職	
2.1	就職してから離職するまでの期間
2.2	離職理由
2.3	離職の際の相談相手
2.4	離職することの想定の有無
2.5	離職直後の思い
2.6	離職したことについての現在の思い
2.7	離職中の生活
2.8	看護師以外の仕事への再就職意向
3 看護師の復職	
3.1	再就職する意思の有無
3.2	看護師としての復職理由
3.3	復職する際の問題点
3.4	復職する際の支援
3.5	復職のために受講が望ましい講座
3.6	看護師の離職・復職等に関する自由意見
4 看護師のキャリア形成	
4.1	看護師になった理由
4.2	看護師になった当初のキャリアプラン
4.3	看護師としての今後のキャリアプラン
4.4	看護師の職業について
4.5	職業観
4.6	看護師という職業や、看護師としてのキャリア形成等に関する自由意見

図表 3 質問項目概要

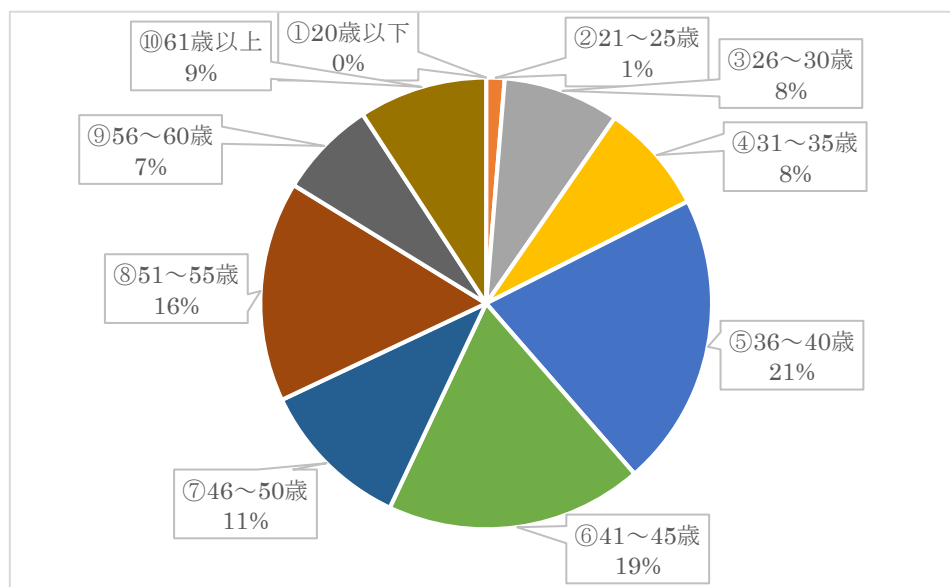
2.2.2 調査結果

本項では、前項で述べた各質問項目に対する回答の集計結果を報告する。

1 回答者属性

1.1 あなたは何歳ですか。

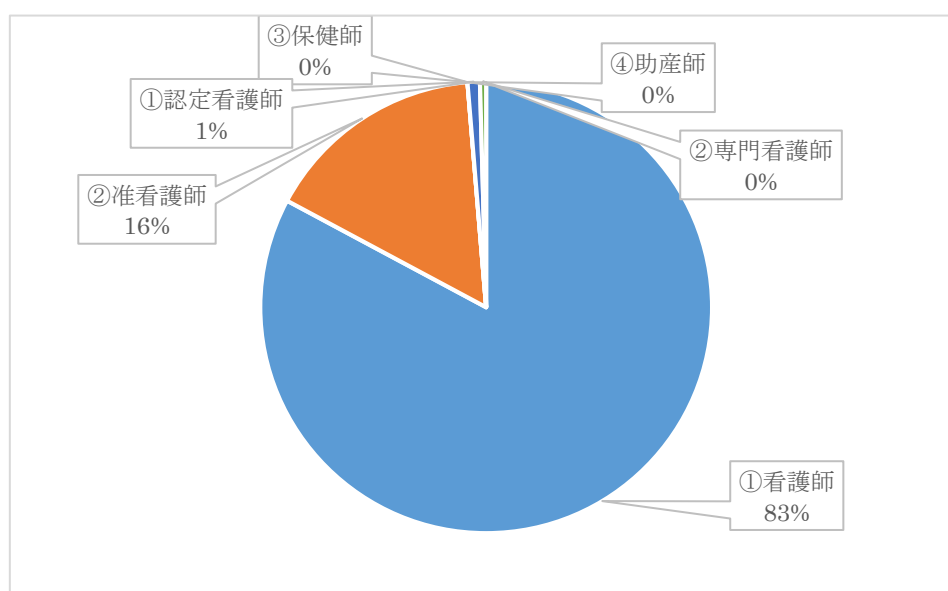
	回答数	構成比(%)
①20 歳以下	0	0.0%
②21～25 歳	3	1.3%
③26～30 歳	19	8.3%
④31～35 歳	18	7.9%
⑤36～40 歳	48	21.1%
⑥41～45 歳	42	18.4%
⑦46～50 歳	25	11.0%
⑧51～55 歳	36	15.8%
⑨56～60 歳	16	7.0%
⑩61 歳以上	21	9.2%
合計	228	



回答者の年齢は、36 歳～55 歳の合計で 65%に達している。

1.2 あなたの看護職の資格区分は何ですか。

		回答数	構成比(%)
1)	①看護師	188	82.8%
	②准看護師	36	15.9%
	③保健師	0	0.0%
	④助産師	0	0.0%
2)	①認定看護師	2	0.9%
	②専門看護師	1	0.4%
合計		227	



① 認定看護師（分野：記述）

・手術看護認定看護師、訪問看護、摂食嚥下障害看護

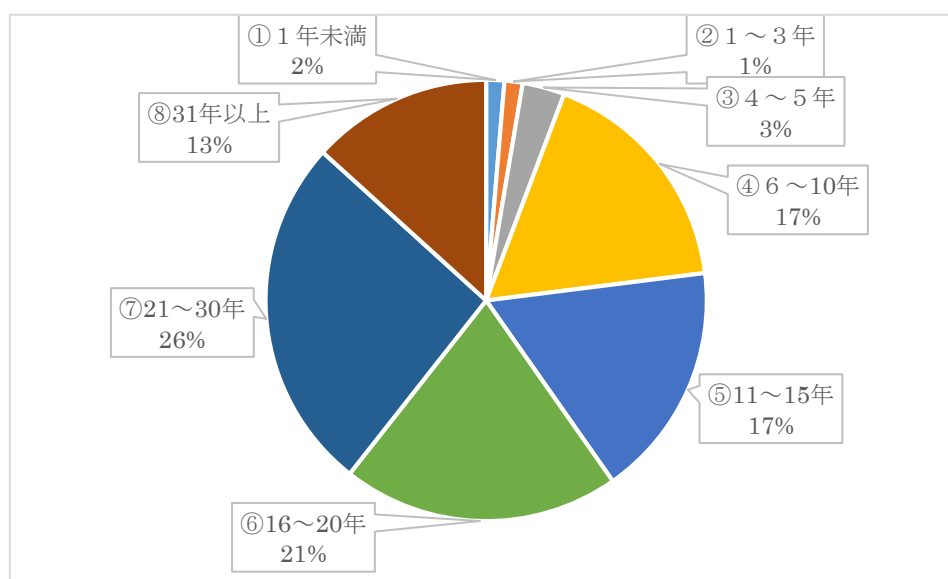
② 専門看護師（分野：記述）

・教育 （※「専門看護師」の分野にはないので、本来は「その他」が適切である）

資格区分では、「看護師」が83%、「准看護師」が16%であった。「保健師」「助産師」はいなかった。

1.3 あなたの実務期間は合計何年ですか。

	回答数	構成比(%)
① 1 年未満	3	1.3%
② 1 ～ 3 年	3	1.3%
③ 4 ～ 5 年	7	3.1%
④ 6 ～10 年	39	17.3%
⑤ 11～15 年	39	17.3%
⑥ 16～20 年	46	20.4%
⑦ 21～30 年	59	26.1%
⑧ 31 年以上	30	13.3%
合計	226	

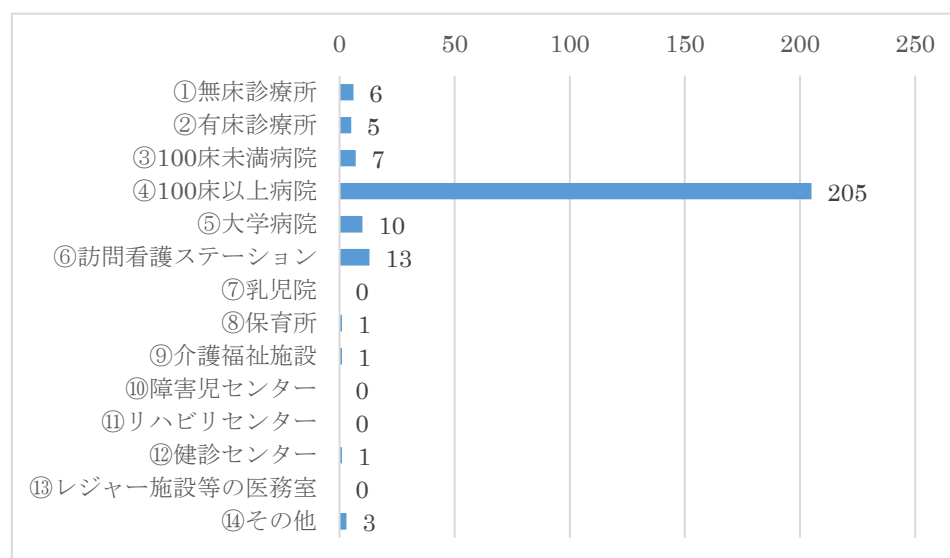


実部経験年数は、16 年以上の合計が 6 割を超えている。

1.4 あなたの勤務先の種類は何ですか。〈複数回答可〉

回答者数（241 件）

	回答数	構成比(%)
①無床診療所	6	2.5%
②有床診療所	5	2.1%
③100 床未満病院	7	2.9%
④100 床以上病院	205	85.1%
⑤大学病院	10	4.1%
⑥訪問看護ステーション	13	5.4%
⑦乳児院	0	0.0%
⑧保育所	1	0.4%
⑨介護福祉施設	1	0.4%
⑩障害児センター	0	0.0%
⑪リハビリセンター	0	0.0%
⑫健診センター	1	0.4%
⑬レジャー施設等の医務室	0	0.0%
⑭その他	3	1.2%
合計	252	



⑭ その他（記述）

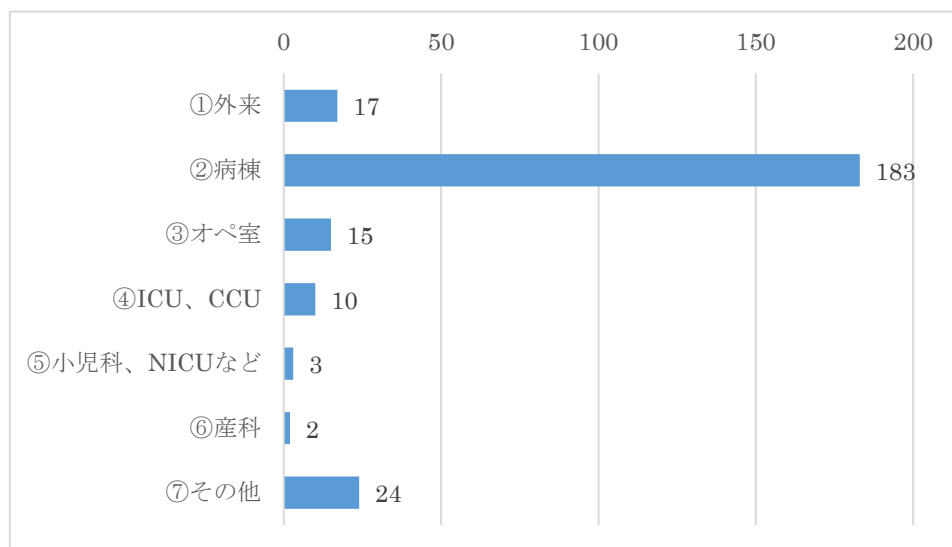
・ 有料老人ホーム、小規模多機能、通所介護、美容外科

勤務先は、「100 床以上病院」が圧倒的に多く、85%に達した。

1.5 あなたの看護職の所属区分は何ですか。〈複数回答可〉

回答者数 (241 件)

	回答数	構成比(%)
①外来	17	7.1%
②病棟	183	75.9%
③オペ室	15	6.2%
④ICU、CCU	10	4.1%
⑤小児科、NICU など	3	1.2%
⑥産科	2	0.8%
⑦その他	24	10.0%
合計	254	



②病棟(病棟：記述)

- ・ 内科 (27)、精神科 (16)、外科 (15)、地域包括ケア病棟 (15)、整形外科 (10)、
- ・ 脳外科 (8)、混合 (4)、消化器外科 (4)、慢性期 (4)、療養型 (4)、PCU (3)、他

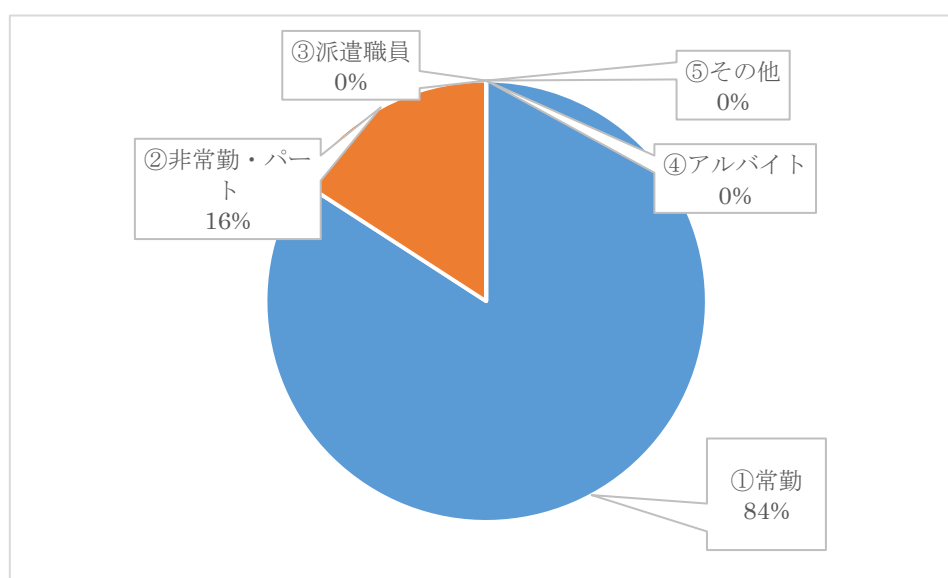
⑦その他 (記述)

訪問看護 (7)、看護部屋 (2)、HD・透析 (2)、婦人科、ER、HCU、在宅、療養

所属区分では、「病棟」が 75.9%と圧倒的に多かった。

1.6 あなたの勤務先での雇用形態は何ですか。

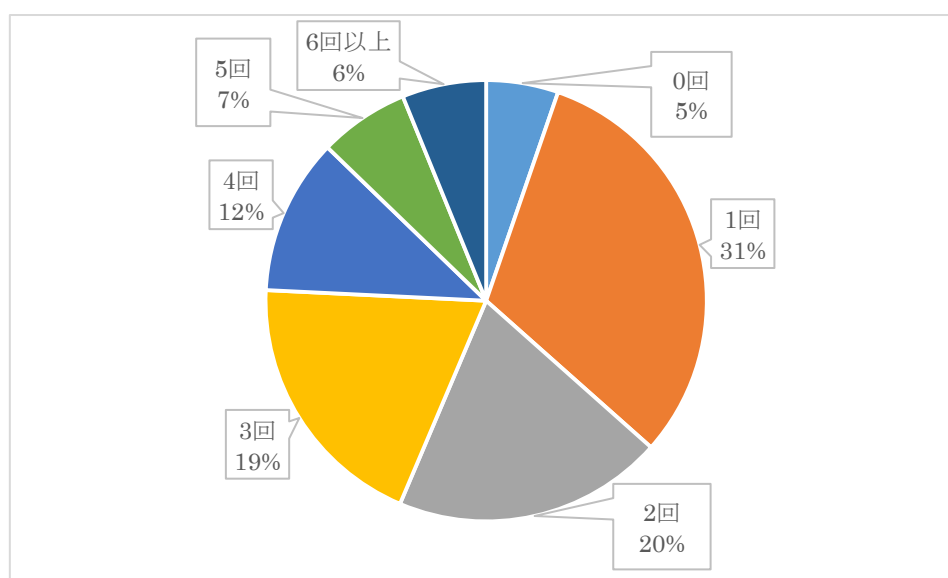
	回答数	構成比(%)
①常勤	191	84.1%
②非常勤・パート	36	15.9%
③派遣職員	0	0.0%
④アルバイト	0	0.0%
⑤その他	0	0.0%
合計	227	



雇用形態は、「常勤」が84%、「非常勤・パート」が16%という結果だった。

1.7 これまでに何回転職しましたか。

	回答数	構成比(%)
0 回	12	5.3%
1 回	71	31.3%
2 回	45	19.8%
3 回	44	19.4%
4 回	26	11.5%
5 回	15	6.6%
6 回以上	14	6.2%
合計	227	

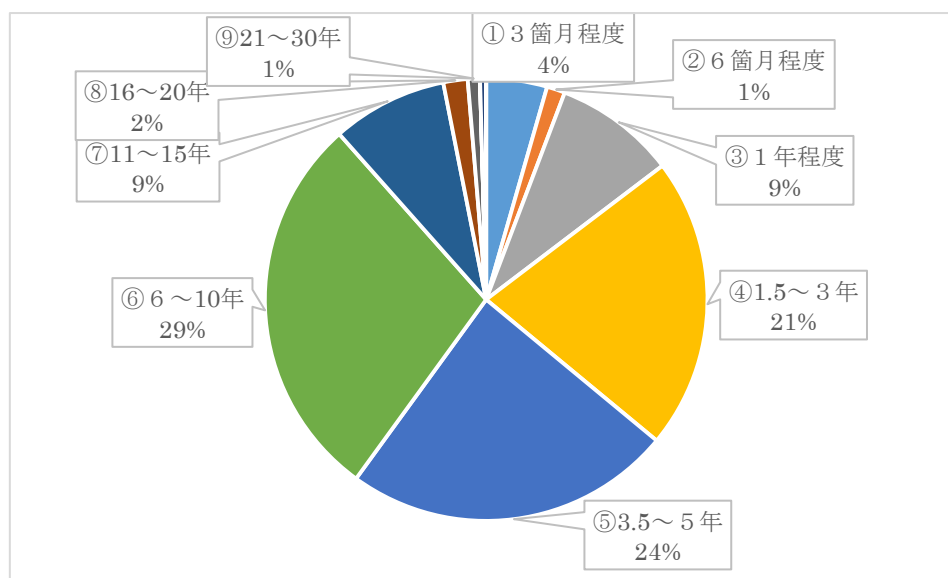


転職回数は、「1 回」が最も多く 31%、次いで、「2 回」20%、「3 回」19%、「4 回」12%と、回数が増えるにつれて回答数は少なくなっている。「0 回」は最も少なく 5%であった。

2 看護師の離職

2.1 あなたが離職したのは就職後どのくらいの期間が経過した頃ですか。

	回答数	構成比(%)
① 3 箇月程度	10	4.4%
② 6 箇月程度	3	1.3%
③ 1 年程度	20	8.9%
④ 1.5～3 年	48	21.3%
⑤ 3.5～5 年	54	24.0%
⑥ 6～10 年	64	28.4%
⑦ 11～15 年	19	8.4%
⑧ 16～20 年	4	1.8%
⑨ 21～30 年	2	0.9%
⑩ 31 年～40 年	0	0.0%
⑪ 41 年～50 年	1	0.4%
⑫ 51 年以上	0	0.0%
合計	225	



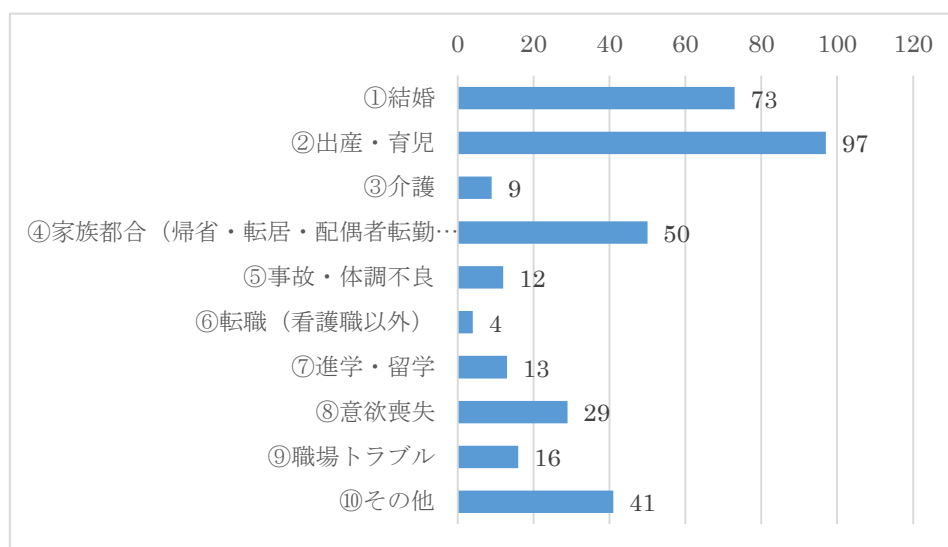
就職してから離職するまでの期間は、「6～10 年」が最も多く 29%で最も多く、「3.5～

5年」が24%、「1.5～3年」が21%と続く。1年未満と16年以上では割合が小さい。

2.2 あなたが離職した理由は何ですか。〈上位3つまで可〉

回答者数（241件）

	回答数	構成比(%)
①結婚	73	30.3%
②出産・育児	97	40.2%
③介護	9	3.7%
④家族都合（帰省・転居・配偶者転勤等）	50	20.7%
⑤事故・体調不良	12	5.0%
⑥転職（看護職以外）	4	1.7%
⑦進学・留学	13	5.4%
⑧意欲喪失	29	12.0%
⑨職場トラブル	16	6.6%
⑩その他	41	17.0%
合計	344	



⑩その他（記述）

＜スキルアップ、キャリアアップ等＞

- ・いろいろな診療科を経験したかった。
- ・キャリアUPしたいと思いました。

- ・スキルアップ
- ・やりたい分野があったため
- ・他に病棟を見てみたい
- ・他の病院、病棟を経験したかった
- ・他の病院も経験したいと思った
- ・他分野に興味があった
- ・他分野への興味
- ・分野・目標を変えて、キャリアアップとして
- ・勉強のため

<給与の問題>

- ・給与未払い、賞与減給
- ・給料
- ・給料が安い
- ・給料面

<妊活>

- ・子供がほしかったから
- ・妊活

<仕事の問題>

- ・管理業務につかれた
- ・仕事に疲れた。
- ・仕事量の多さ 時間外の多さ
- ・多忙さと興味分野が変わった為

<通勤に関する問題>

- ・通勤
- ・通勤に時間がかかる
- ・通勤時間が長い

<その他>

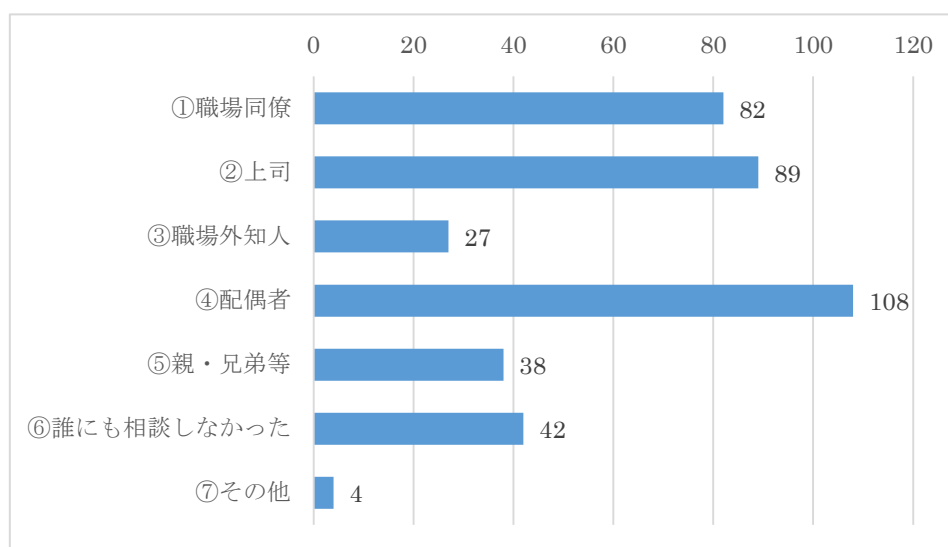
- ・小学生が3年生までのたく児しかなかった。6年生までみてくれるところに転職
- ・教育体制の不備
- ・1回目：もっと学べる職場が良かった。2回目：多忙で疲れてしまった。(残業も多く異動で仕事内容が合わなくなった。)
- ・パワハラ
- ・家族の転勤等
- ・経営悪化による予防的転職(離婚を期に)
- ・産後手伝い
- ・事前学習800枚、提出物期限実習で両立どころではなかった
- ・職場の環境(休みなど)が悪くて
- ・定年後6ヶ月
- ・転勤

離職理由は、「出産・育児」が40.2%で最も多く、次いで、「結婚」が30.3%と続く。「その他」には、スキルアップやキャリアアップに関する積極的な理由もある一方で、給与や仕事に関する理由も回答されている。

2.3 離職を決意する際、あなたは誰に相談しましたか。〈上位3つまで可〉

回答者数（241 件）

	回答数	構成比(%)
①職場同僚	82	34.0%
②上司	89	36.9%
③職場外知人	27	11.2%
④配偶者	108	44.8%
⑤親・兄弟等	38	15.8%
⑥誰にも相談しなかった	42	17.4%
⑦その他	4	1.7%
合計	390	



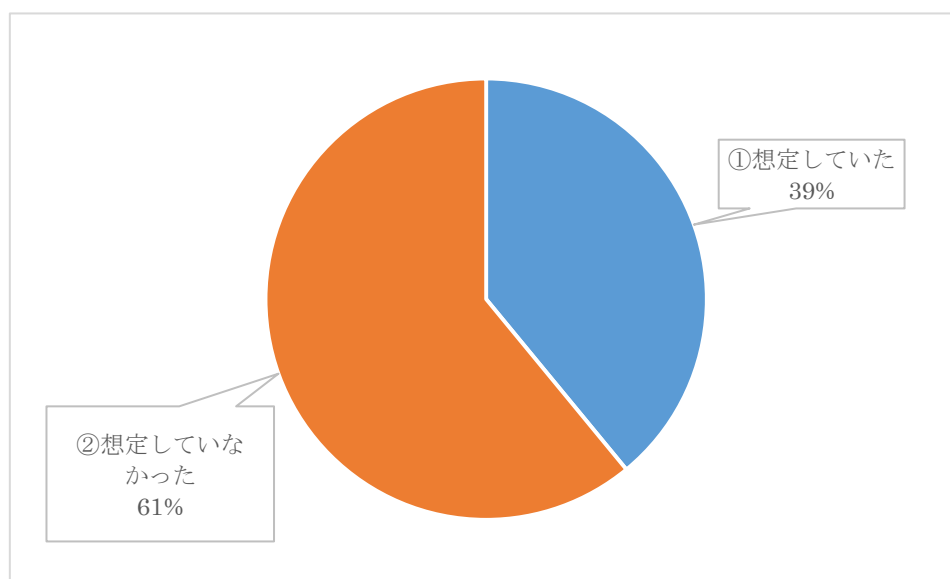
⑦その他（記述）

・子 ・主治医 ・友人

離職の際の相談相手では、「配偶者」が 44.8%で最も多かった。その他、「上司」が 36.9%、「職場同僚」が 34.0%と続く。「誰にも相談しなかった」という回答が 17.4%でその次に多かった。

2.4 就職した際、あなたは離職することを想定していましたか。

	回答数	構成比(%)
①想定していた	89	39.0%
②想定していなかった	139	61.0%
合計	228	

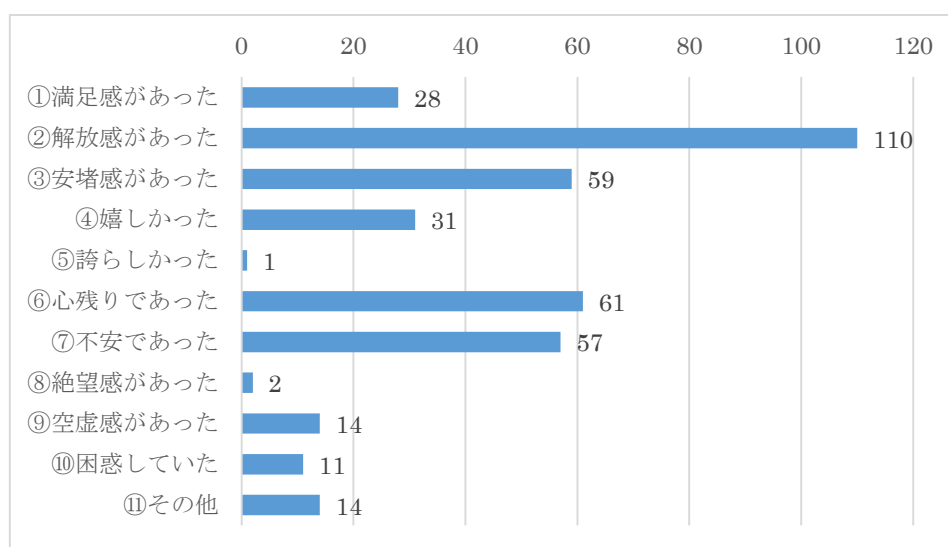


離職することの想定の有無では、「想定していなかった」が61%、「想定していた」が39%であった。

2.5 離職直後、あなたは当時どのような思いでいましたか。〈上位3つまで可〉

回答者数（241 件）

	回答数	構成比(%)
①満足感があった	28	11.6%
②解放感があった	110	45.6%
③安堵感があった	59	24.5%
④嬉しかった	31	12.9%
⑤誇らしかった	1	0.4%
⑥心残りであった	61	25.3%
⑦不安であった	57	23.7%
⑧絶望感があった	2	0.8%
⑨空虚感があった	14	5.8%
⑩困惑していた	11	4.6%
⑪その他	14	5.8%
合計	388	



⑪その他（記述）

- ・子供の体調などで仕事を休まなきゃなど、よけいな心配をせず子育てできると思った。
- ・次の生活に向けて、やる気になっていた。
- ・上記の思いはなく、特に何も思わなかった。

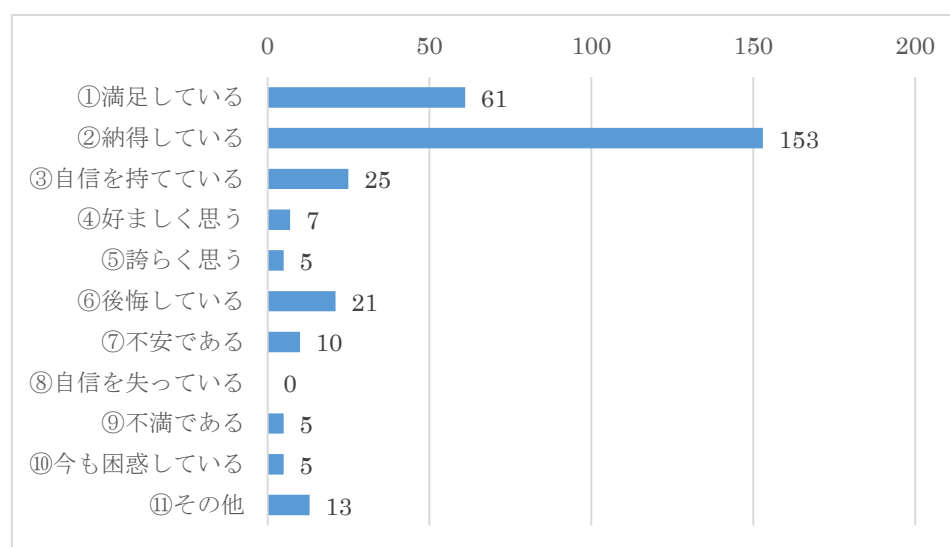
- ・職場を離れるさみしさもあった
- ・新しい土地に行くことへの興味
- ・前部長から就職先では何もできないなどと言われてひきとめられなかなか決まらず疲弊した
- ・妊娠していたので、子供の事で頭がいっぱいで看護師の仕事についてほとんど考えてなかったと思います。
- ・妊娠中（3回）切迫流産などのための離職であったため、特別に何かを思った記憶がない
- ・復帰をすると思っていた為、特に思いはなかった。

離職直後の思いでは、「解放感があった」が45.6%で最も多かった。次いで、「心残りであった」が25.3%、「安堵感があった」が24.5%、「不安であった」が23.7%と続く

2.6 離職したことについて、現在はどのような思いでいますか。〈上位3つまで可〉

回答者数（241 件）

	回答数	構成比(%)
①満足している	61	25.3%
②納得している	153	63.5%
③自信を持てている	25	10.4%
④好ましく思う	7	2.9%
⑤誇らしく思う	5	2.1%
⑥後悔している	21	8.7%
⑦不安である	10	4.1%
⑧自信を失っている	0	0.0%
⑨不満である	5	2.1%
⑩今も困惑している	5	2.1%
⑪その他	13	5.4%
合計	305	



⑪その他（記述）

- ・しかたがない
- ・また戻りたい
- ・何とも思っていない

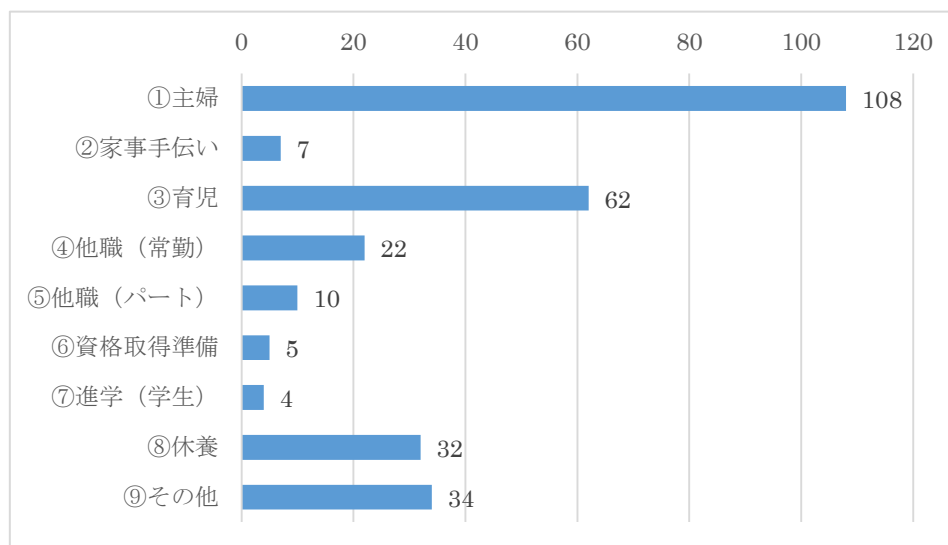
- ・何とも思っていない。良い経験となった。
- ・少し後悔している
- ・心残りが少しある。
- ・特に何も待ってない なつかしく思う
- ・特別な思いはない
- ・忘れた

離職したことについての現在の思いでは、「納得している」が 63.5%で最も多く、「満足している」が 25.3%でその次に多い。離職したことについて後悔はないということがうかがえる。

2.7 離職していた際（もしくは現在離職している）、あなたはどのように生活していましたか。〈上位2つまで可〉

回答者数（241 件）

	回答数	構成比(%)
①主婦	108	44.8%
②家事手伝い	7	2.9%
③育児	62	25.7%
④他職（常勤）	22	9.1%
⑤他職（パート）	10	4.1%
⑥資格取得準備	5	2.1%
⑦進学（学生）	4	1.7%
⑧休養	32	13.3%
⑨その他	34	14.1%
合計	284	



⑦進学（学生）（分野：記述）

- ・看護学科 2 年課程
- ・福祉通信大学

⑨その他（記述）

<すぐに再就職>

- ・ すぐ再就職（3）
- ・ すぐ働いた（2）
- ・ 離職期間なし（2）
- ・ 3月末離職 4月再就職
- ・ 休みなく離職翌日から新たな職場へ
- ・ 休む間もなくすぐ働いている。
- ・ 休職期間なし
- ・ 今の病院に入職
- ・ 直ぐに就職
- ・ やめてからも働いた
- ・ やめてからも働いた

<再就職活動等>

- ・ いい職場探し（面接など）
- ・ 再就職活動
- ・ 再就職準備
- ・ 次の職場を探す
- ・ 就活

<その他の仕事>

- ・ 看護師の派遣
- ・ 准職員
- ・ 他職 派遣
- ・ 妊娠中にアルバイトをしていた
- ・ アルバイト（看護職）
- ・ フリー

<その他>

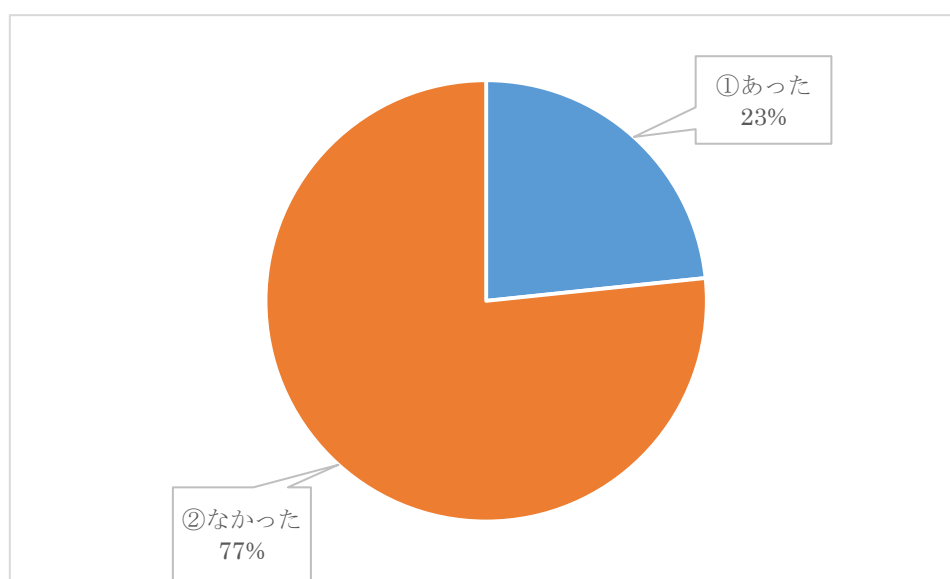
- ・ 介護（5）

- ・バックパッカーとして旅をしていた
- ・引っ越し（家さがし）
- ・語学留学
- ・失業保険
- ・留学
- ・何もしていない

離職中の生活では、「主婦」が 44.8%で最も多く、「育児」が 25.7%で次に多い。「その他」には「すぐに再就職」という回答も比較的多かった。

2.8 離職中、看護師以外の仕事に就職しようと考えたことがありましたか。〈①②いずれでも理由を併記〉

	回答数	構成比(%)
①あった	53	23.3%
②なかった	174	76.7%
合計	227	



理由（記述）

＜「①あった」の理由＞

その時の自分の生活状況に合えばよいと考えたから
 子供が小さいためパートで働きたかったため
 看護師以外の仕事をしてみたかった
 他職が楽しそうに見え
 他の資格を使用して
 違う仕事をしてみたかった
 知人に頼まれて
 子育てと両立できるか不安であった。
 看護師にむいていないと思ったから

違う仕事で働いてみたかった
責任が非常に重い（生命にかかわる）
時間の都合がつく自分に合う仕事をした。
他の職も経験してみたかったから
他に合った仕事があるかもしれないと思ったから
ちょっとだけ働けるところがあればと。 こずかいかせぎに。
看護師が嫌になった
看護職がイヤだったので他の仕事で資格を得たいと思った。
離職理由が育児だったので、看護師では時間に自由が無いと考えていたので
子育て中だったため
他の仕事も経験してみたかった。
経験に重きをおいていた時期だった
同僚の話を聞いたりして、多職種経験も役立つかと
資格を活かしたかったので（保険師）
他の職業もついてみたい
すでに次の職場に就職することが決まっていた
責任の重い看護師職がストレスで他の仕事もやってみたくなった
NS 以外の仕事をしてみたかった
留学先で色々な転種の友人ができて興味を持った
時間の拘束がつかったため
育児があったので、内職でもと思ったことがある
何かほかにできることがあったのではないかと思った
命に関わらない仕事をしてみたいと思ったから。
ナースの仕事の責任の重さがいやだった

<「②なかった」の理由>

他の職種について全く考えが及ばなかった
出産後は復職すると考えていたから
家さがし、引っ越しがあったので忙しかった。
他看護職以外に興味がなかったため
やりたい事がなかった
看護師以外考えたことない。理由といわれても困る。

子育て中で考えてなかった
看護師が好きだから
1番好きな仕事だから
看護師以外には考えられない為
特技がない
資格を生かしたかった為
やりたいことが他にない
すぐ翌日から働いた為考えていない
看護師が好きなので
他のことはできない
看護師以外考えたことない
看護師が好きなので
他の仕事経験がない為
産後の手伝いと夫の看護のため
看護以外のアルバイト、生命保険会社
特に思いつかなかった 看護師が嫌でやめたわけではないから
他の仕事をいたことがない
看護師として働きたい希望はあった。
看護師としてのキャリアアップを考えていたため
看護師になるための資格取得準備だったので離職してよかった
他に資格等ないため
他の仕事に魅力は無かったから
他の仕事をした事がなかったから
すぐに再就職をしたから
仕事が好きなので。
仕事が好きなので。
主婦や育児を楽しんでいた
スキルUPしたかったから
ほかに考えたことが無い
時給や税金、保育料を考えると、看護師でなければやっていけないため
復職先が決まっていた。

看護師の仕事が大好きだったので、他を考えることはなかった。復帰する気持ちもあったので。

看護師として仕事に戻ると決めていた

やりがいのある仕事だから

考えなかった

産後で育児をしていたので就職のことはあまり考えていなかった。

NS の仕事がしたかったから

免許がもっていないから

看護師より所得が増えないから。増えれば他の仕事もしてみたかった。

資格は活かしたかった

資格をとっているため

次の職が決まっていた

看護師以外でできること、やりたいことがなかった。

NS が好き

休養

看護師以外の仕事に就けるとは思わなかった

資格がある分高時給のため

看護師以外でできることが無いと思っていた

別の仕事をしたことがなかったから

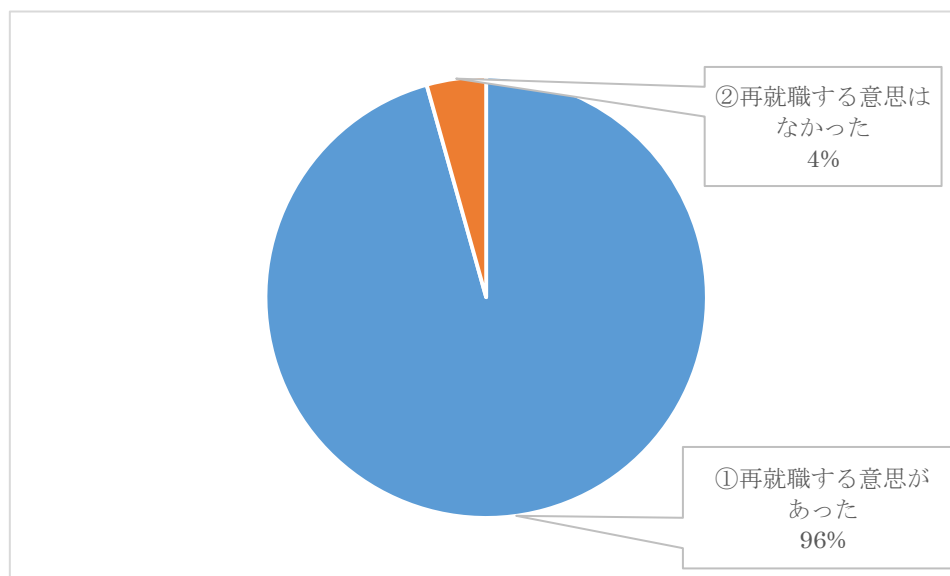
経験がないため

資格を生かそうと思っていたから

3 看護師の復職

3.1 離職中に、（看護職に限らず）再就職する意思はありましたか。

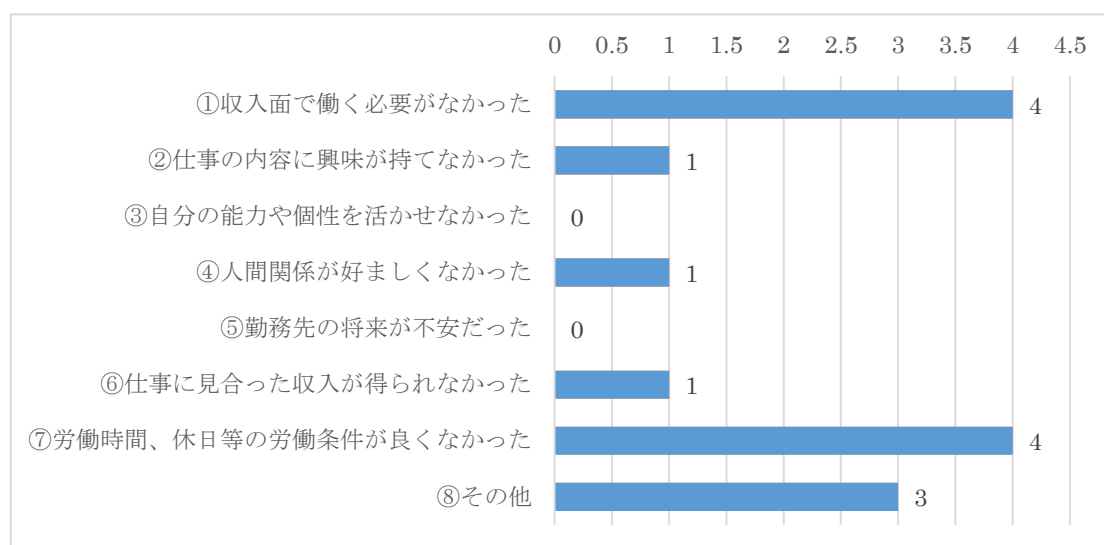
	回答数	構成比(%)
①再就職する意思があった	176	95.7%
②再就職する意思はなかった	8	4.3%
合計	184	



再就職する意思の有無では、96%が「再就職する意思があった」と回答している。

3.1.1 再就職する意思がなかった理由は何ですか。〈上位2つまで可〉

	回答数	構成比(%)
①収入面で働く必要がなかった	4	28.6%
②仕事の内容に興味を持てなかった	1	7.1%
③自分の能力や個性を活かせなかった	0	0.0%
④人間関係が好ましくなかった	1	7.1%
⑤勤務先の将来が不安だった	0	0.0%
⑥仕事に見合った収入が得られなかった	1	7.1%
⑦労働時間、休日等の労働条件が良くなかった	4	28.6%
⑧その他	3	21.4%
合計	14	



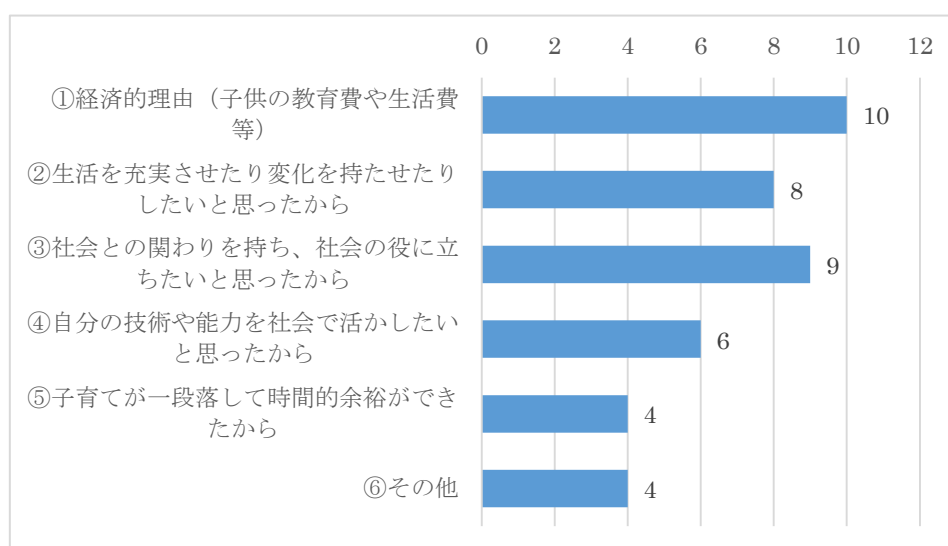
⑧その他（記述）

- ・ 育児に専念したかった
- ・ 子供がほしかったため
- ・ 自信がなかった
- ・ 専業主婦を楽しみたかった

再就職する意思がなかった理由では、「収入面で働く必要がなかった」と「労働時間、休日等の労働条件が良くなかった」がともに4件で、前問で「再就職する意思がなかった」と回答した人の半数が選択している。

3.1.2 再就職の意思がなかったのに再就職した理由は何ですか。〈上位2つまで可〉

	回答数	構成比(%)
①経済的理由（子供の教育費や生活費等）	10	24.4%
②生活を充実させたり変化を持たせたりしたいと思ったから	8	19.5%
③社会との関わりを持ち、社会の役に立ちたいと思ったから	9	22.0%
④自分の技術や能力を社会で活かしたいと思ったから	6	14.6%
⑤子育てが一段落して時間的余裕ができたから	4	9.8%
⑥その他	4	9.8%
合計	41	



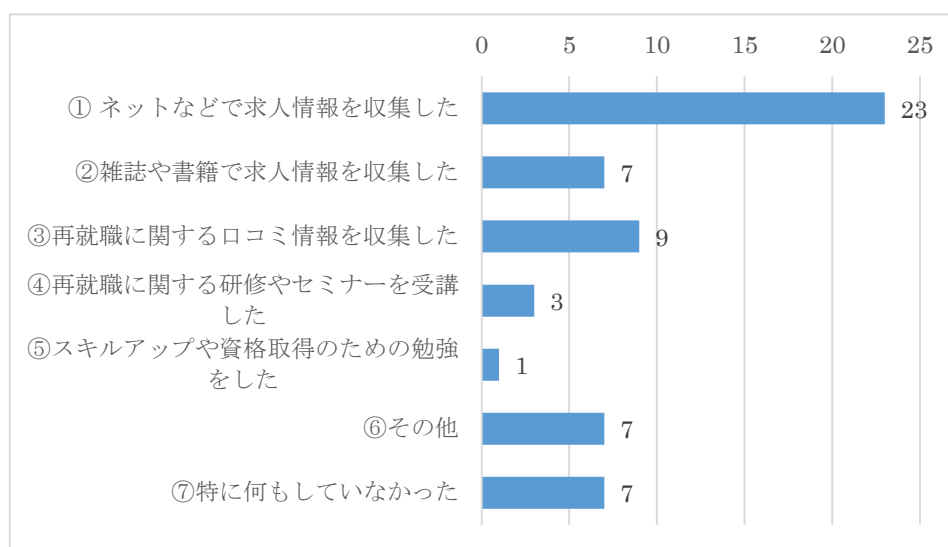
⑥その他（記述）

- ・育児だけでは息がつまりそうになったから
- ・主人の会社の手伝いが必要だったため

再就職する意思がなかったにもかかわらず再就職した理由では、「経済的理由（子供の教育費や生活費等）」が10件で最も多く、「社会との関わりを持ち、社会の役に立ちたいと思ったから」が9件で次に多い。

3.1.3 再就職するためにどのような活動をしましたか。〈上位2つまで可〉

	回答数	構成比(%)
① ネットなどで求人情報を収集した	23	46.0%
② 雑誌や書籍で求人情報を収集した	7	14.0%
③ 再就職に関する口コミ情報を収集した	9	18.0%
④ 再就職に関する研修やセミナーを受講した	3	6.0%
⑤ スキルアップや資格取得のための勉強をした	1	2.0%
⑥ その他	7	14.0%
⑦ 特に何もしていなかった	7	14.0%
合計	50	



⑥ その他（記述）

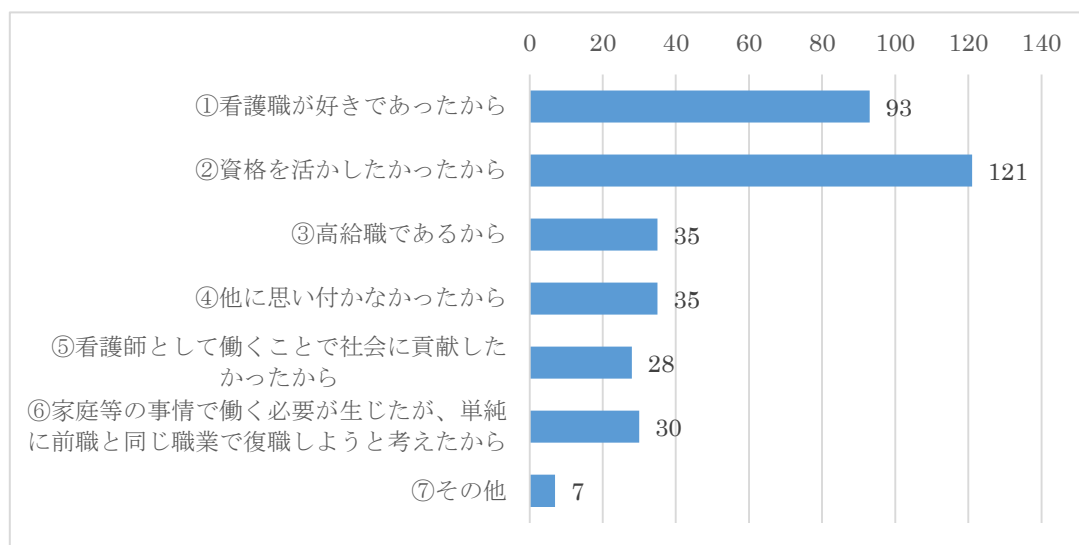
- ・ ハローワークに通った。
- ・ 職安に行った
- ・ 知人からの紹介
- ・ 知人のつてで
- ・ 転職サイトを利用
- ・ 友人に勧められた

再就職するための活動では、「ネットなどで求人情報を収集した」が46.0%で群を抜いている。様々な方法で再就職に関する情報を収集していたという回答がある一方で、「特に何もしていなかった」という回答も14.0%に上っている。

3.2 あなたが看護師として復職した理由は何ですか。〈上位2つまで可〉

回答者数（241 件）

	回答数	構成比(%)
①看護職が好きであったから	93	38.6%
②資格を活かしたかったから	121	50.2%
③高給職であるから	35	14.5%
④他に思い付かなかったから	35	14.5%
⑤看護師として働くことで社会に貢献したかったから	28	11.6%
⑥家庭等の事情で働く必要が生じたが、単純に前職と同じ職業で復職しようと思ったから	30	12.4%
⑦その他	7	2.9%
合計	349	



⑦その他（記述）

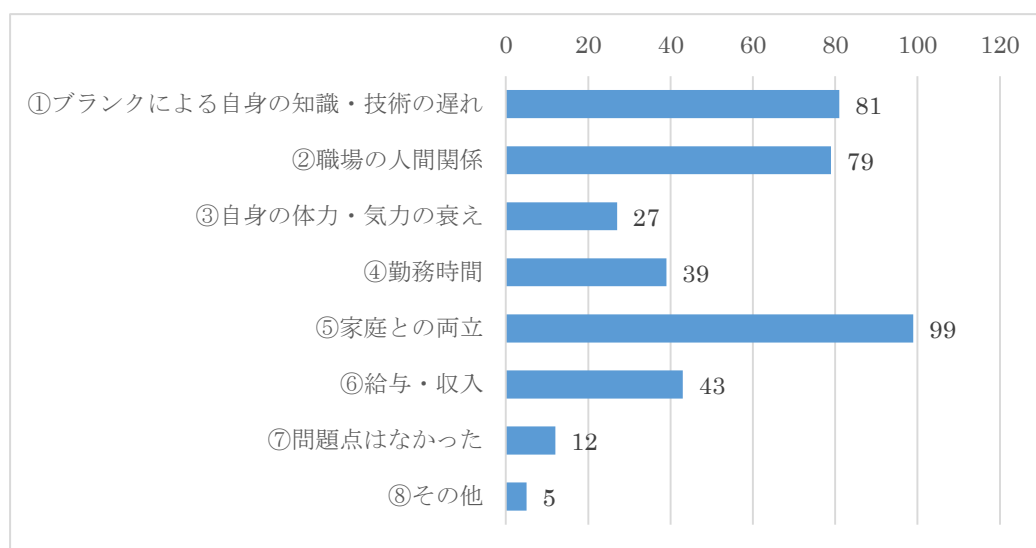
- ・かせがないと
- ・何もしていないでいることが嫌になったから
- ・自分の経験を活かしたかったから
- ・看護師だから
- ・経済的に働く必要があった。
- ・前職も看護師
- ・介護だけだと自分自身のストレスがたまるから

看護師としての復職理由では、「資格を活かしたかったから」が 50.2%で最も多く、「看護職が好きであったから」が 38.6%で次に多い。

3.3 復職する際、あなたは何が問題点として考えられましたか。〈上位2つまで可〉

回答者数（241 件）

	回答数	構成比(%)
①ブランクによる自身の知識・技術の遅れ	81	33.6%
②職場の人間関係	79	32.8%
③自身の体力・気力の衰え	27	11.2%
④勤務時間	39	16.2%
⑤家庭との両立	99	41.1%
⑥給与・収入	43	17.8%
⑦問題点はなかった	12	5.0%
⑧その他	5	2.1%
合計	385	



⑧その他（記述）

- ・ 2 年目で別の職場だったから色々不安
- ・ 休み
- ・ 小学生のたく児
- ・ 通勤距離

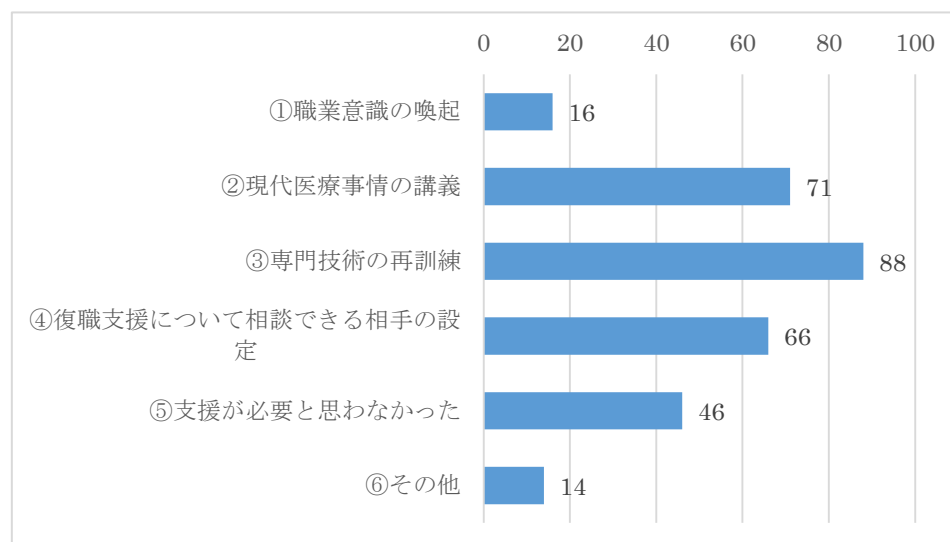
- ・働いたことが無い看護業務に就職する事
- ・勉強と仕事の両立
- ・転勤で身寄りがなく、地域性など不明であったこと。

復職する際の問題点では、「家族との両立」が41.1%で最も多かった。次いで、「ブランクによる自信の知識・技術の遅れ」が33.6%、「職場の人間関係」が32.8%と続く。

3.4 復職する際、どのような支援があるとよいと思いましたか。〈上位2つまで可〉

回答者数（241 件）

	回答数	構成比(%)
①職業意識の喚起	16	6.6%
②現代医療事情の講義	71	29.5%
③専門技術の再訓練	88	36.5%
④復職支援について相談できる相手の設定	66	27.4%
⑤支援が必要と思わなかった	46	19.1%
⑥その他	14	5.8%
合計	301	



⑥その他（記述）

- ・2回目はナース人材バンクの様なところでお世話になった。
- ・3ヶ月の休養だったので特に何も必要なかった。
- ・ハローワークのナースの仕事について、情報がもっとあればよいと思いました。
- ・育児支援体制
- ・家族のサポート体制が一番必要だったが、その点については100%あったので、現在よりも最初の復帰時には多くの知識・技術・管理などの範囲は狭かったので必要を感じる能力もなかったと思う。
- ・休暇の充実、研修費負担を職場でなるべく多く出してもらえる
- ・金、休
- ・子供のあずけ先について
- ・子供の受け皿が欲しい。幼児→小学生までの期間。
- ・小学生以上の子を預けられる施設
- ・託児施設
- ・病院によってありますが、中途者対象の研修に参加してメンタル的にラクになれた
- ・復職、入職準備金
- ・保育所

復職する際の支援では、「専門技術の再訓練」が36.5%で最も多く、「現代医療事情の講義」が29.5%、「復職支援について相談できる相手の設定」が27.4%と続く。「その他」には、託児所や保育所に関するものが比較的多かった。

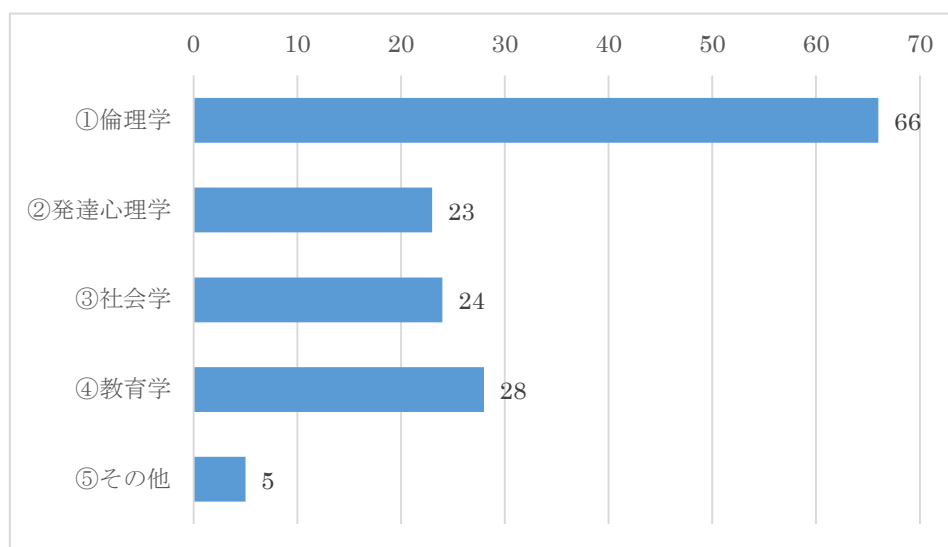
3.5 復職のために受講するのが望ましい講座について教えてください。

学習内容 〈複数回答可〉

1) 基礎分野

回答者数 (241 件)

	回答数	構成比(%)
①倫理学	66	27.4%
②発達心理学	23	9.5%
③社会学	24	10.0%
④教育学	28	11.6%
⑤その他	5	2.1%
合計	146	



⑤その他（記述）

・パソコン ・道徳 ・必要なし

復職のために受講が望ましい講座の「基礎分野」では、「倫理学」が 27.4%と最も多かった。

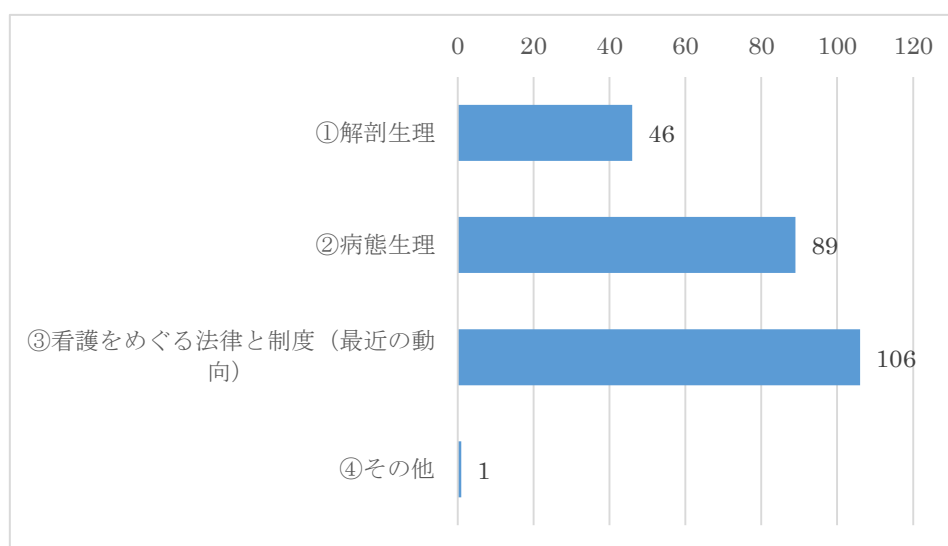
3.5 復職のために受講するのが望ましい講座について教えてください。

学習内容 〈複数回答可〉

2) 専門基礎分野

回答者数 (241 件)

	回答数	構成比(%)
①解剖生理	46	19.1%
②病態生理	89	36.9%
③看護をめぐる法律と制度（最近の動向）	106	44.0%
④その他	1	0.4%
合計	242	



④ その他（記述）

- ・ レスピレーター
- ・ 人工呼吸器の取り扱い

復職のために受講が望ましい講座の「専門基礎分野」では、「看護をめぐる法律と制度（最近の動向）」が 44.0%、「病態生理」が 36.9%、「解剖生理」が 19.1%という順であった。

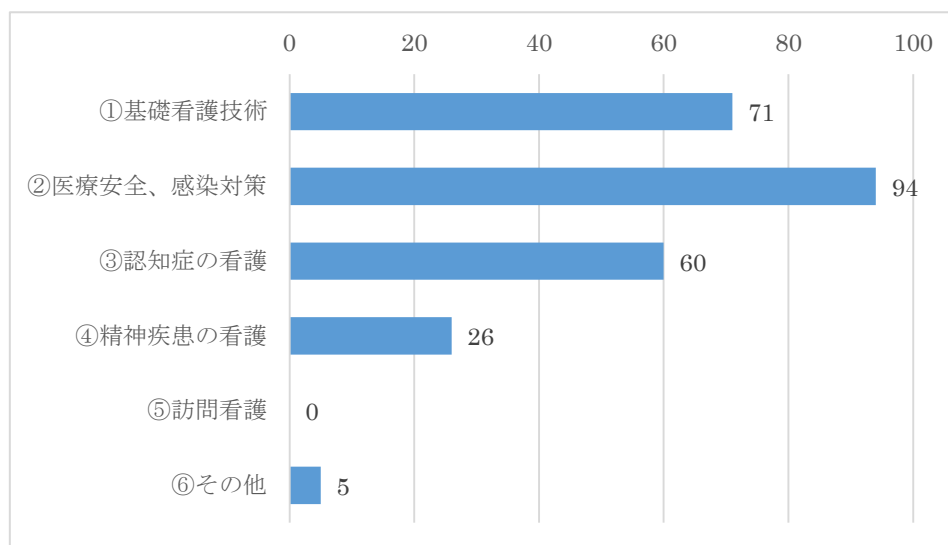
3.5 復職のために受講するのが望ましい講座について教えてください。

学習内容 〈複数回答可〉

3) 専門分野（看護学）

回答者数（241 件）

	回答数	構成比(%)
①基礎看護技術	71	29.5%
②医療安全、感染対策	94	39.0%
③認知症の看護	60	24.9%
④精神疾患の看護	26	10.8%
⑤訪問看護	0	0.0%
⑥その他	5	2.1%
合計	256	



⑥その他（記述）

- ・看護技術全般
- ・看護必要度
- ・最新治療
- ・新しい治療や薬剤について
- ・地域包括、電子カルテ
- ・必要な物は新しい病棟の専門知識で病院によってやり方がちがうので、病院に入職してからの勉強が多かったです。

復職のために受講が望ましい講座の「専門分野（看護学）」では、「医療安全、感染対策」が 39.0%で最も多く、「基礎看護技術」が 29.5%、「認知症の看護」が 24.9%と続く。

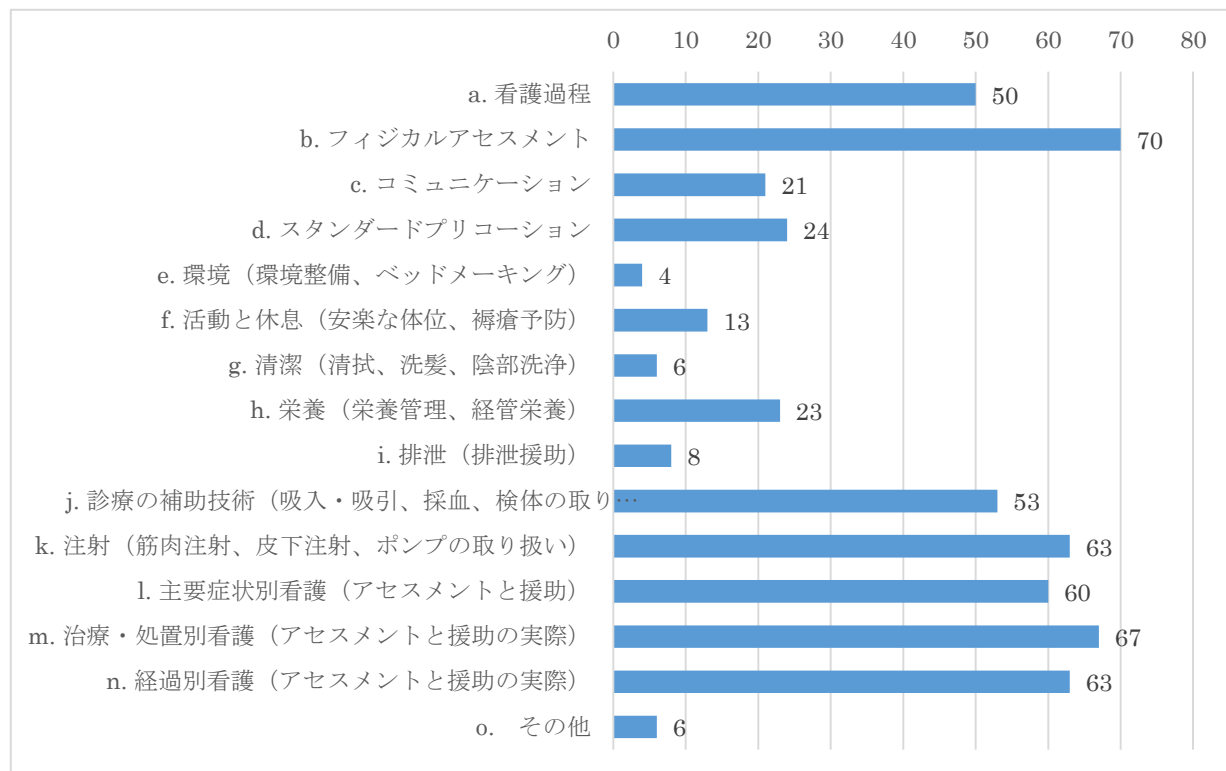
3.5 復職のために受講するのが望ましい講座について教えてください。

学習内容 〈複数回答可〉

3) 専門分野（看護学） ①基礎看護技術

回答者数（71 件）

	回答数	構成比(%)
a. 看護過程	50	70.4%
b. フィジカルアセスメント	70	98.6%
c. コミュニケーション	21	29.6%
d. スタンダードプリコーション	24	33.8%
e. 環境（環境整備、ベッドメイキング）	4	5.6%
f. 活動と休息（安楽な体位、褥瘡予防）	13	18.3%
g. 清潔（清拭、洗髪、陰部洗浄）	6	8.5%
h. 栄養（栄養管理、経管栄養）	23	32.4%
i. 排泄（排泄援助）	8	11.3%
j. 診療の補助技術（吸入・吸引、採血、検体の取り扱い）	53	74.6%
k. 注射（筋肉注射、皮下注射、ポンプの取り扱い）	63	88.7%
l. 主要症状別看護（アセスメントと援助）	60	84.5%
m. 治療・処置別看護（アセスメントと援助の実際）	67	94.4%
n. 経過別看護（アセスメントと援助の実際）	63	88.7%
o. その他	6	8.5%
合計	531	



o. その他（記述）

- ・ レスピレーター
- ・ 人工呼吸器の取り扱い

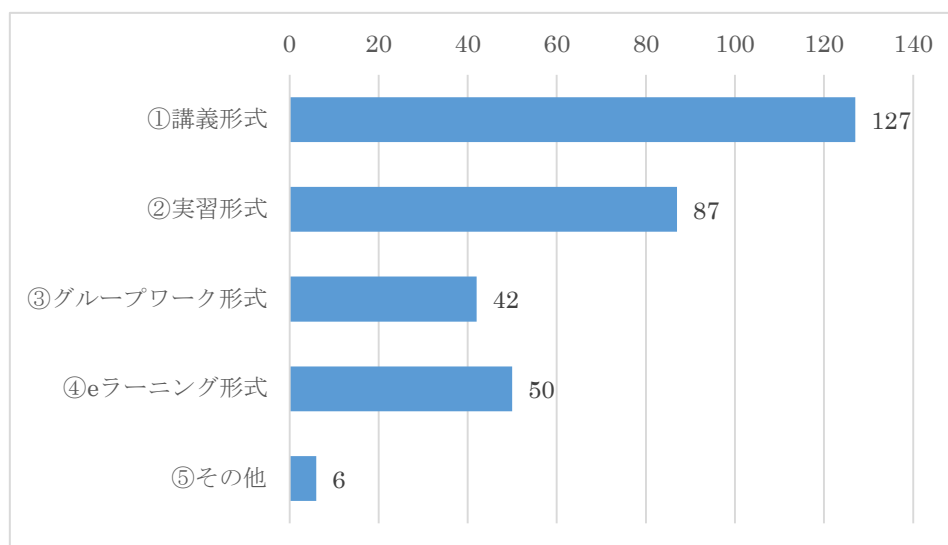
復職のために受講が望ましい講座の「専門分野（看護学） ①基礎看護技術」では、「フィジカルアセスメント」が98.6%と、回答者のほとんどが回答している。その他、「治療・処置別看護（アセスメントと援助の実際）」の94.4%、「注射（筋肉注射、皮下注射、ポンプの取り扱い）」の88.7%が多い。

3.5 復職のために受講するのが望ましい講座について教えてください。

学習形式 〈複数回答可〉

回答者数 (241 件)

	回答数	構成比(%)
①講義形式	127	52.7%
②実習形式	87	36.1%
③グループワーク形式	42	17.4%
④eラーニング形式	50	20.7%
⑤その他	6	2.5%
合計	312	



⑤その他（記述）

- ・インターネット
- ・自己学習でよいのでは
- ・個々に合ってれば何でも良い。私は自分で地道にやりたい。
- ・演習形式
- ・講義形式の方が気軽に受講しやすい
- ・個別
- ・ロールプレイ

復職のために受講が望ましい講座の「学習形式」では、「講義形式」が 52.7%と最も多く、「実習形式」が 36.1%で次に多い。

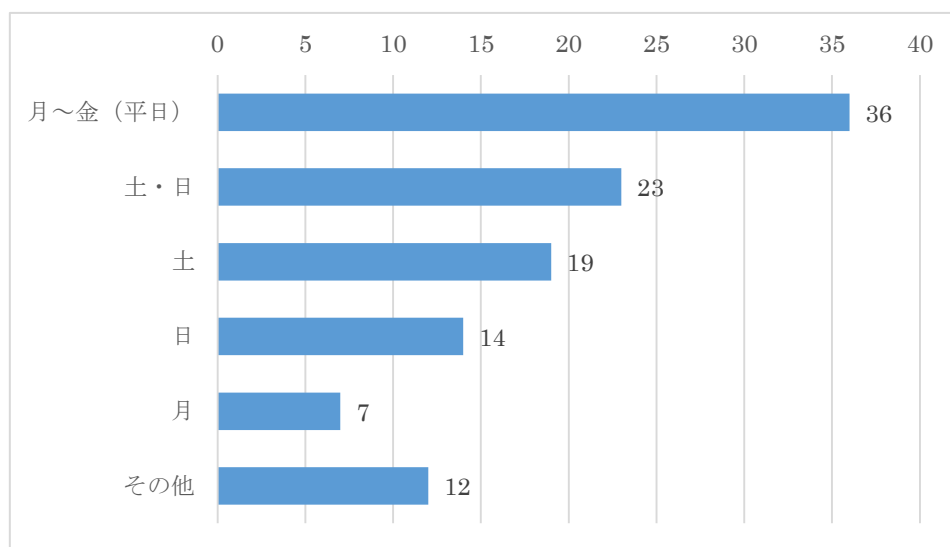
3.5 復職のために受講するのが望ましい講座について教えてください。

〈「学習形式」で①②③を選んだ方〉

受講しやすい曜日 〈複数記入可〉

「学習形式」①②③選択回答者数（176 件）

	回答数	構成比(%)
月～金（平日）	36	20.5%
土・日	23	13.1%
土	19	10.8%
日	14	8.0%
月	7	4.0%
その他	12	6.8%
合計	111	



その他（記述）

- ・ 特になし（3）
- ・ いつでも（2）
- ・ 離職中であれば特になし
- ・ なし。必要ならその日にあわせ時間を作ります。

復職のために受講が望ましい講座の「受講しやすい曜日」では、「月～金（平日）」が 20.5%で最も多い。「土・日」が 13.1%で次に多く、「土」が 10.8%と続く。

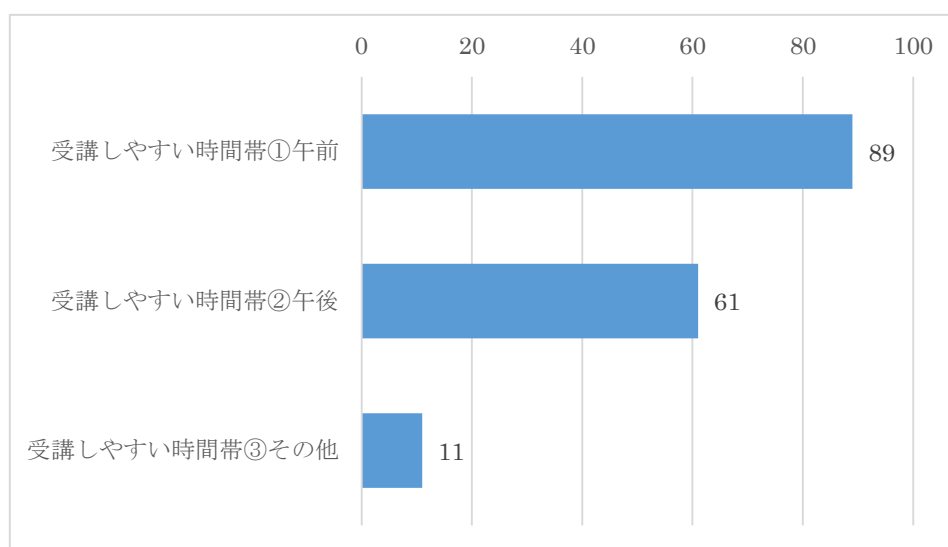
3.5 復職のために受講するのが望ましい講座について教えてください。

〈「学習形式」で①②③を選んだ方〉

受講しやすい時間帯 〈複数記入可〉

「学習形式」①②③選択回答者数（176 件）

	回答数	構成比(%)
受講しやすい時間帯①午前	89	50.6%
受講しやすい時間帯②午後	61	34.7%
受講しやすい時間帯③その他	11	6.3%
合計	161	



③ その他（記述）

- ・ 9 時～5 時
- ・ 10-14 時
- ・ 9 時から 16 時
- ・ 18 時以降
- ・ 夕方
- ・ 夕方から
- ・ 夕方以降
- ・ 夜間
- ・ 夜間（19～20）
- ・ 夜間帯 20:00～22:00
- ・ 勤務時間内
- ・ 時間内
- ・ 就職場所で支援してもらいたいので、職場の考えによる。
- ・ 場所による
- ・ いつでも
- ・ わからない

復職のために受講が望ましい講座の「受講しやすい時間帯」では、「午前」が 50.6%と最も多く、「午後」は 34.7%であった。

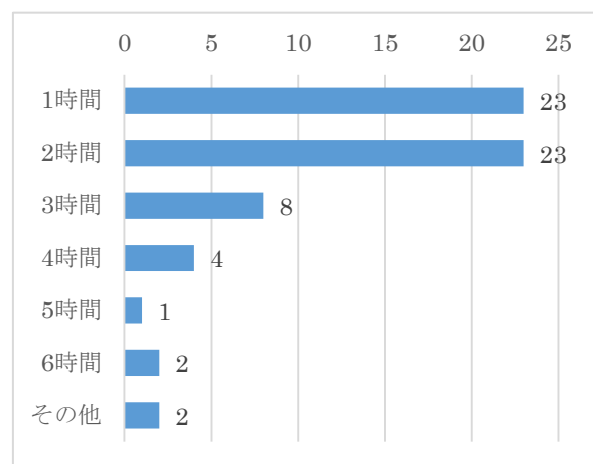
3.5 復職のために受講するのが望ましい講座について教えてください。

〈「学習形式」で④を選んだ方〉

学習時間（時間／日）

「学習形式」④選択回答者数（50件）

	回答数	構成比 (%)
1 時間	23	46.0%
2 時間	23	46.0%
3 時間	8	16.0%
4 時間	4	8.0%
5 時間	1	2.0%
6 時間	2	4.0%
その他	2	4.0%
合計	63	

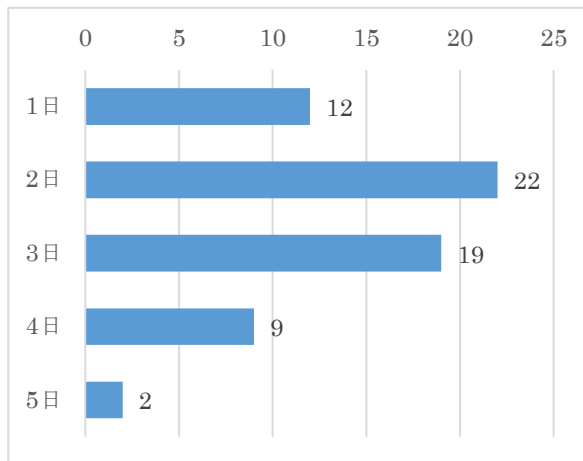


復職のために受講するのが望ましい講座の、eラーニングの学習時間（時間／日）では、「1時間」と「2時間」がともに46.0%で最も多かった。それより長い時間の回答者は少なかった。

学習時間（日／週）

「学習形式」④選択回答者数（50件）

	回答数	構成比 (%)
1 日	12	24.0%
2 日	22	44.0%
3 日	19	38.0%
4 日	9	18.0%
5 日	2	4.0%
合計	64	

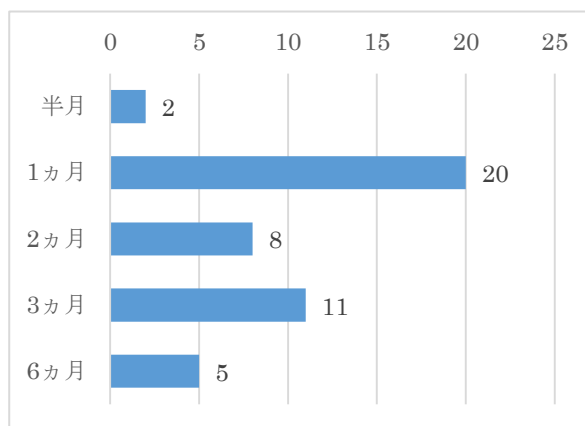


また、eラーニングの学習時間（日／週）では、「2 日」が 44.0%で最も多く、「3 日」が 38.0%、「1 日」が 24.0%と続く。

学習時間（期間・月）

「学習形式」④選択回答者数（50件）

	回答数	構成比 (%)
半月	2	4.0%
1 カ月	20	40.0%
2 カ月	8	16.0%
3 カ月	11	22.0%
6 カ月	5	10.0%
合計	46	

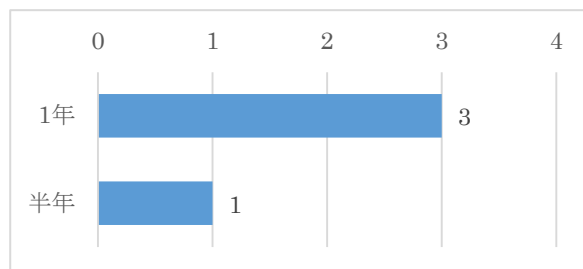


eラーニングの学習時間（期間・月）では、「1カ月が」最も多く40.0%となった。短期集中型のニーズが高いことがわかる。

学習時間（期間・年）

「学習形式」④選択回答者数（50件）

	回答数	構成比 (%)
1年	3	6.0%
半年	1	2.0%
合計	4	



eラーニングの学習時間（期間・年）では、「1年」が3件、「半年」が1件であった。ここまでの長期にわたる学習のニーズは高くないことがわかる。

3.6 あなたの体験等を踏まえ、看護師の離職・復職等について、意見等を自由に記入してください。

（自由記述）

<離職・復職とキャリアアップ>

- ・離職（転職）にネガティブな印象もありますが、自身のキャリアアップにつながっています。一度きりの人生ですので、一つの組織にとらわれず、様々な人と出会い自分を見つめていきたいと思っています。今まで出会う事の出来た人達（看護師、医師、介護職、事務等々）様々な人達から学ばせてもらいました。
- ・キャリアアップに必要だと思う。時として新人で活動するのは大切と思う。
- ・スキルアップのため、他病院に転職することは良いことだと思う。同病院だけでは知ることのできないことなど学ぶことも出来るので、離職し復職を行っていくことも大切か考える。

<離職・復職と職場環境>

- ・前の病院でも同じ消化器外科で勤務していました。以前の病院はICUがあり、術直後の看護については学ぶことが出来ませんでした。復職し現在の病院は病棟にHCがあるため、術直後からの管理をみることができ自分のスキルアップにつながった。復職して、

1 番よかったのは、子育てママに対するサポートがとていいです。看護休暇、病児保育もととのっており、子供が具合が悪いと休みをかわってくれたり、声をかけてくれるサポート体制がとていいです。有休の消化率も 100%、長期休みもとてるので自分のリフレッシュができます。以前の病院はまずなかった。自分の働きやすい職場を見つける？ためにも離職・復職はいいと思う。

<離職・復職と不安>

- ・復職時はいろんな不安がつきまといます。まして子供が小さい事が一番不安。職場環境の十分整った所が望ましいがそうでない所もあり、上司によると思います。
- ・私は離職翌日から新たな職場に就職、様々な手続きが面倒でそうした。離職期間が長いと技術に対しての不安やアセスメントできるかなど知識の不安等も出てくると思う。復職して少しでもできることがあれば自信につながると思う。
- ・看護師は注射や処置など技術を要する為、離職中も自身の技術や知識の低下にあせりがあると思います。
- ・他県で離職した為（地域による技術と医学の違い、職員・患者との人間関係）が心配でした。復職後、他スタッフの方々から声をかけていただいたので、すくなじめました。
- ・離職し次の職場に復職するまでの期間があいてしまうと仕事についていけないかとても不安になった。
- ・女性はどのような職業でも妊娠子育て家庭の事情により離職を経験する人は多いと思います。そして 1 度離職すると復職も難しいが正社員として勤務するのはかなり困難な場合があります。わたしは看護師としての資格をもっていたため、スムーズに復職できましたが、それでもブランクにより仕事ができるのか不安はありました。
- ・離職期間が長ければ長いほど、仕事への不安が強まります。そのフォローが必要と思います。スキルアップもしなければならぬし、主婦として長く家庭にはいってれば、さらに医療（検査や治療など）の進歩についていけないので、不安が強まります。

<離職・復職と人間関係>

- ・復職に対し サポート態勢が万全でも最終的に人間関係に問題があれば復職はきびしいと思います。
- ・女性の中で働くため人間関係がとても大切であり、家庭との協立ができる環境を多くとり込んでほしい。

- ・体調が悪く、離職（パート）したがその後復職しても職場の人間関係というか、いばる人、つんとしている人、人にきちんと教えられない人、穏やかでない人などが多い。その為、復職にも再離職する人がいるのではないかと思います。
- ・新しい環境で働く上で人間関係が良好な所が大事だと思います。 基本的な看護技術を習得しないと転職は厳しいかもしれません。

<離職防止>

- ・離職する理由を、次に生かしてもらいたい。それが変わらないから、更に離職する人が増える。
- ・女性が主体である以上、やむを得ないものですが、離職しないで済む環境が働き方の多様化を整備促進することで、少なくすることはできると思う。また、その職場の教育制度によっても大きな影響があると思う。小さな診療所や教育制度の整えられない病院などでは、給与面やキャリアアップ、スキルアップを考慮して転職せざるを得ないこともあると思う。

<看護職として必要なこと>

- ・病院、クリニック等に入職を考えている場合、社会状況を学び、世代、時代背景を理解することが望ましい。 人が老いていくこと、発達成長していくことを実感得られることがよいと考えたと同じでニーズは何か。ご本人様、ご家族様にサービスの提供のため知ることが望ましい。
- ・自分も含めて女性は結婚、出産、子育て等の理由で離職も考えるときがある。復職に向けて、第1に考えたことは、仕事を理由に家庭がおろそかにならないこと。子供の体調不良の時にお互い様だと思ってもらえて休ませてもらえること。定時でなるべく帰れること。人それぞれ理由はあるが働きやすい職場がいい病院になる一番の近道であり、働きやすければ不満も少なく患者にも優しくできる。それが全てだと思う。

<復職支援について>

- ・復職した際のオリエンテーションは、新人とは異なる形で行った方がいいと思う。看護協会でも復職訓練をやっているそうですが、よい取り組みだと思います。
- ・離職期間が長いと、復職するのに勇気が必要。 技術面での遅れが不安。 サポートがあればもう少し気楽に復職へ向かえる。

- ・一度看護師を離職し他の職業を経験し、別の世界から看護師の仕事をみていると、一度離れると進歩が早すぎてなかなか復職するには勇気がいりました。復職後はかなり遠い記憶をたどったり、調べたりと大変な事が多く「学び直し講座」等身近にあれば強く思いました。復職したいと思っている人は多くいると思いますが、今後講座や仕事先の紹介等道筋があれば復職する人はかなり増えると思います。
- ・ブランクが長いと復職に興味があってもその一歩がなかなか踏み出せないが、フォローアップする体制が整っているといいと思う。
- ・ひとりずつの個性にどれだけ向かい合えるかが、動機づけに差が生じると思う。どれだけの情報を多くつかんでも、どのように処理対応していけばいいのかの対面式アドバイスなど、信頼、信用のコンタクト部分が誰でもあるといいと思っている。ネット情報などが入口になって、コンタクトとなる初対面（初対話）に対応する人の能力・温かさ？みたいなものも必要な（熱意ももちろんそうですが）
- ・離職・復職のためのカウンセリングがあるといいな。
- ・復職前に研修等は受けずに復職しました。自主学習もしましたが、今振り返ってみると、看護協会の研修等をうけてみてもよかったのにとおもいます。
- ・サポートしてくれるシステム
- ・支援は職場で実施していただきたい。
- ・復職試用期間〇ヶ月みたいなものがあると研修を兼ねて経験となり自分に合っている所なのか見極める事ができるし、その間は、病院であれば色々な科を回れるとかできればよいと思う。

<看護職で良かったこと>

- ・生活環境の変化（結婚や引っ越し等）やスキルアップの為など人それぞれ離職の理由は様々だと思います。離職、復職はとても精神的負担がかかるものだと思います。1つの所で長い間勤め続ける事も大変だとは思いますが。そんな負担が大きい復職ではありませんが、私は今の自分があるのもそういう経験をしてこそとも思えるので、私は今の経過（看護歴）で良かったと思っています。
- ・私はブランクがあり再就職しました。約10年間ありましたが、周りの方がとても親切にあたたかい目で接して下さり、何とか看護職を続ける事ができています。今の病院の方々には感謝しています。私は、周りの職員の方に恵まれたと思っています。
- ・定年を迎え子供の産後の手伝いをするため1年休みその間友人に誘われ再就職する。好きな仕事が続けられ幸せだと感謝しております。

- ・自分の生活スタイル（お金が欲しい、日勤だけやりたい、パートで育児を優先したいなど）に合わせて、職場や働き方を変えられる為、女性にとってはとても働きやすい仕事だと思う。
- ・自分の環境に合わせて離職・復職が可能なので、核家族で身内になかなか頼れない人にとっては助かりました。

<出産・育児>

- ・子育ては自分で子供の成長をみながらゆっくり毎日を過ごしたかったため、離職をし、少しずつ手が離れると復職を考えた。続けて出産する事（家族計画）も考えた。
- ・女性の場合、結婚・出産というタイミングでの離職が多いと思うので、職場のサポート体制が充実していれば、離職率を下げられると思われる。
- ・子供ができて看護師として独身時代と同じように働いていくつもりでしたが、おもうように進まない現実がそこにはあり、看護師としても母親・妻としても完璧にこなせていないことがつもりつもって今は家族のために働ける場所にうつるしかないと決断。しかし、本当は・・・理想の職場はなかなかないです。
- ・結婚、出産に伴い離職する確率が高いと思う。復職にあたり子育て期間の勤務時間など、保育園や預ける場所が必要であると思われる。
- ・私は結婚・出産・育児の為に、一度離職をし、10年専業主婦として頑張ってきた。看護師の仕事よりもずっとハードに動きまわっていたと思う。子育てが一段落した時、看護師の仕事をもう一度やりたいと思い今の職についたが、一度現場を離れ違う環境で頑張ってきた経験は、今の仕事で大きな糧になっていると思う。人との関わりや自分を振り返り学ぼうとする姿勢は以前よりも大きく自分の中にあると感じている。
- ・育児に専念したいと思っていたが、なるべく残業が少ない病棟で復職を考えました。
（保育所の迎えの時間に間に合わないため）子育てと仕事の両立に対して、スタッフの人達も同じような立場の人が多く病棟を希望した。成形のため高給与を望んでいるが、実際そうでもない。
- ・私は結婚を機に退職しました。（夫が北海道に転勤になったため）女性は結婚や出産などすると看護師という職業は周りの協力がないとフルタイムで仕事を続けていくのは困難であると思います。復職したとしてもパートなど時短勤務しかできないと思います。特に責任感が強く中途半端な事ができない性格の人が多くいます。
- ・子育てしながらの復職なので家族の支えがあってこそ実現していると思う。

<本人の意欲・意識等>

- ・ 本人の意欲が大切だと思います。 周りが何を言っても何をしても本人次第なので・・・
- ・ 体調面、家庭の事情、経済面など総合的に考えて判断すればいいのではと思います。
- ・ 自分次第なのは

<休日>

- ・ 他の職業と比べて休日が少ない。有給も取りづらいので友人や家族とのコミュニケーションがとりづらい。
- ・ 最初に就職した職場は休みが少なく残業が多くてつかれてやめてしまった。 今の職場は前のところより休みが多く残業時間が少なく働きやすい。 色々な職場をみて自分に合った職場を見つけたほうがいいと思う。

<給与>

- ・ 前職の病院の給料に不満だったが、転職後の方が給料が下がった。
- ・ 提示された給与と、実際に支払われる給与内容に差が生じてる

<その他>

- ・ 転居に伴い転職場をしました。前 HP がすごく好きだったのでかなり迷いましたが、1 つの HP でしか働けなかったら今の様に様々な症例にも出会えなかったので今は良かったと思っています。
- ・ 看護師 3～4 年になるといろいろと役割がふられ責任も大きくなる。 研修にも参加することが多くなり、自分の時間が持てなくなり負担が大きかった。 さらに年数を重ねることで役職の話があり、続けられるか不安になり離職という形になった。相談できる上司がいれば違う選択肢もあったかもしれない。 復職に対し不安があったが、知識や技術の見直しをし、違和感なく復帰できた。 新人教育の基礎がしっかりしていれば、スムーズに対応できると感じた。
- ・ 通勤時間の短い病院を探した
- ・ 看護協会等で、仕事を学業と両立できるような病院紹介をしてくれれば良かったかと思う。 私が東京都〇〇大学の通信制 2 年課程を情報もなく入学してしまって、とても苦勞が多く、ほかの学校とくらべてもとても提出物の期限や全日制の学生さんと同じ内容の勉強は働きながら学ぶには離職するしかなかったが、離職中にたまたま看護協会で自

分の現在の病院を見つけて、両立でき国家試験に合格し、現在も働かせていただきとても感謝しております。

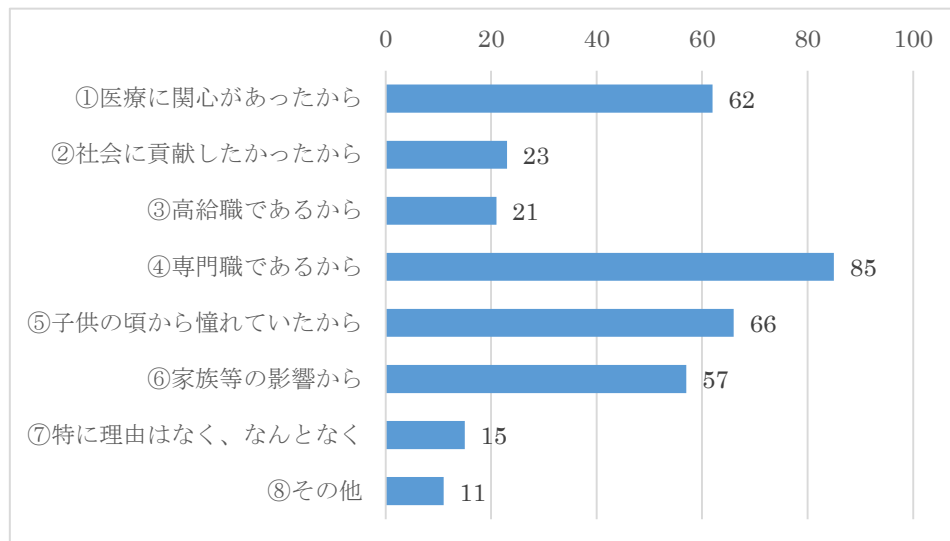
- ・家庭の事情に合わせられる職場の選択ができると良いと思いました。 キャリアアップの支援のある職場が増えると良い。
- ・ライフワークバランスの充実と言われているが、まだまだ独身か既婚か、子供がいるかいないかによっても仕事の量など同じに働きながら平等には至っていない。 独身や子供もいない人に負担がかかれば、ますます不公平感が出てしまい、離職につながる。 そんな思いを話せる場所が職場内ではほぼなかった。 ・復職においても離職した理由を回避できる場所を探したが、細かな情報は分からないためサイトを利用したが、それでも情報は不十分であり入職してから退職をかんがえる事もあった。 ・日々色々な事が変わっていくため、期間があくと古い知識しかないので、復職しづらい。 また、大学病院と個人HPでも差があり働く場所も考えなくては復職出来ない。
- ・ライフイベントによって離職せざるをえない状況が生まれて また、いつでも復職できる職種を考えます。 しかし、離職している期間が長いと不安も大きいので 病棟では離職機関も考慮しオリエンテーションの機関、内容を考えて行っています。
- ・一度お仕事を休みして将来のことを考えたり、体調を整えられたのは、良かったです。しかし、別の病院に就職する際、看護技術で求められることが違うので大変さはありました。
- ・女性は男性に比べ離職しなければならない機会が多いかもしれません。その後の復職には不安もあり、踏み出す勇気も必要だなあと思います。それをのりこえればなんとかやっていけるものだなあと思います。(いろんな人が、いろんな形で助けてくれるので)
- ・日本の社会ではまだ、ジェンダー的な考え方があり、女だから〇〇〇せねばならないという考えがまだ残っており、子育ての上でその古い考えが大半を占める。社会全体の考えをもっと柔軟にしていく必要があると思う。 女性が子育てをしながら安心して働ける場作りが必要である。ぜひ社会作りに工夫をして欲しい。
- ・どんな理由で看護学校へ行って免許をとったかわかりませんが、あきらかにナースの仕事ができない、むかない方も数々いらっしゃると思います。ナースになる前に適しているかどうか、学校でどうにかできる事はないのでしょうか？ 離職された方の中でも自分の事情でやめた方もいれば、仕事ができなくてやめた方もたくさんみてきました。自分にむかない仕事と思われる方も多いと思うので、学校に入る前の段階で適性試験など行ってほしいです。 だれかれかまわずナースが少ないからとペーパー試験だけで合格させては、みんな辞めてしまうと思います。

4 看護師のキャリア形成

4.1 あなたが看護師になった理由は何ですか。〈上位2つまで可〉

回答者数 (241 件)

	回答数	構成比(%)
①医療に関心があったから	62	25.7%
②社会に貢献したかったから	23	9.5%
③高給職であるから	21	8.7%
④専門職であるから	85	35.3%
⑤子供の頃から憧れていたから	66	27.4%
⑥家族等の影響から	57	23.7%
⑦特に理由はなく、なんとなく	15	6.2%
⑧その他	11	4.6%
合計	340	



⑧その他（記述）

- ・ N・Sに勧められたから
- ・ テレビ
- ・ 安定
- ・ 家族に勧められて

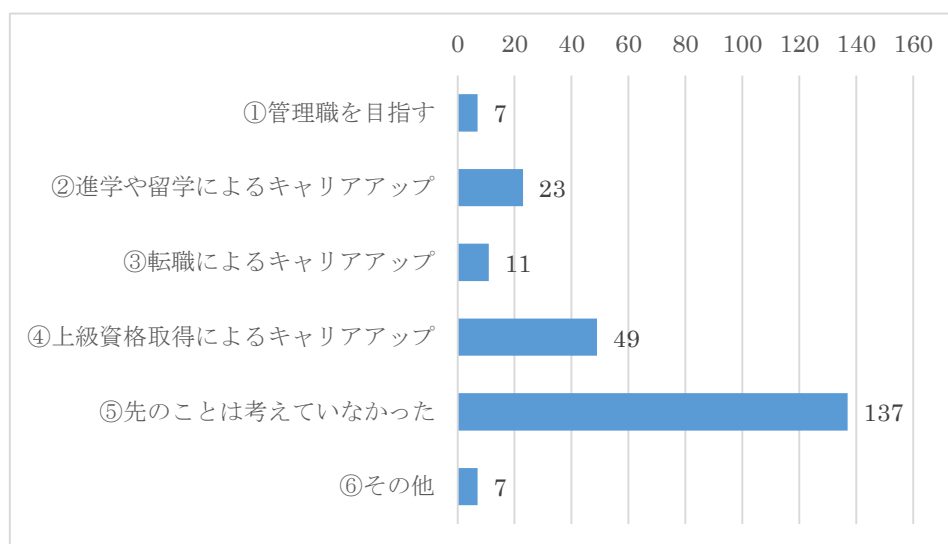
- ・ 子供に関わる職業として友人の誘いから
- ・ 自宅近くに看護科があったから
- ・ 就職に困らないから
- ・ 身内の死がきっかけ
- ・ 当時就職難ということもあり
- ・ 母子家庭としてやっていくため資格をとるのに生活費支給、学費の貸付があるから
- ・ 寮に入りたかったから

看護師になった理由では、「専門職であるから」が 35.3%で最も多く、「子供の頃から憧れていたから」が 27.4%、「医療に関心があったから」が 25.7%、「家族等の影響から」が 23.7%と続く。

4.2 看護師になった当初、あなたはどのようなキャリアを進もうと考えていましたか。〈上位2つまで可〉

回答者数（241 件）

	回答数	構成比(%)
①管理職を目指す	7	2.9%
②進学や留学によるキャリアアップ	23	9.5%
③転職によるキャリアアップ	11	4.6%
④上級資格取得によるキャリアアップ	49	20.3%
⑤先のことは考えていなかった	137	56.8%
⑥その他	7	2.9%
合計	234	



⑥その他（記述）

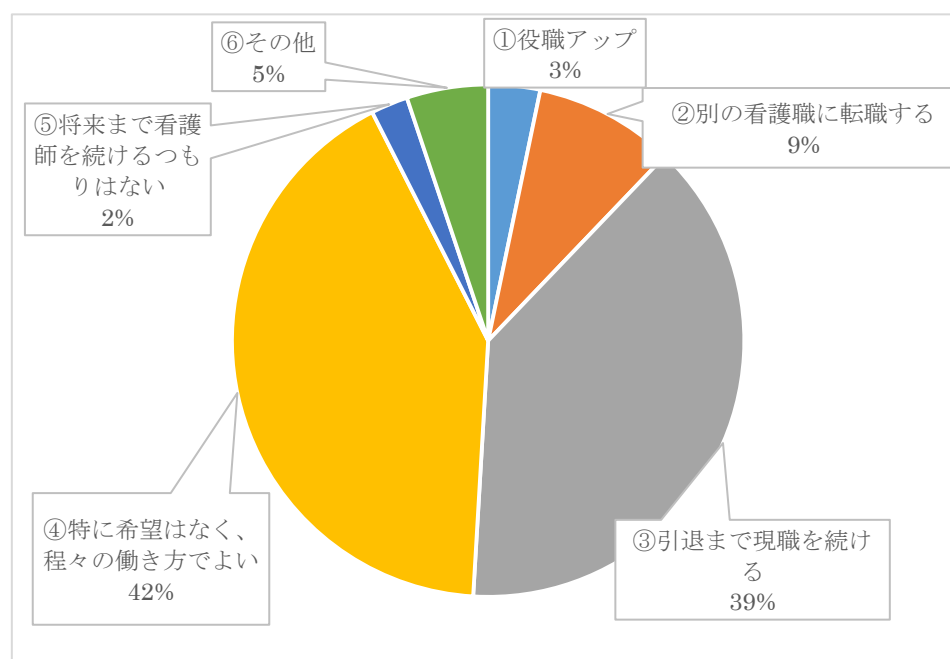
- ・職場が好きなのでただただ働きたかった
- ・専門職を深めることでした
- ・地域の家庭医のようなところで
- ・附属の病院への就職。奨学金を利用していたので。

看護師になった当初のキャリアプランは、「先のことは考えていなかった」が 56.8%で最も多かった。当初は、それほど明確なキャリアプランはなかったことがわかる。

4.3 あなたは看護師として今後どのようなキャリアを進みたいと考えていますか。

回答者数（241 件）

	回答数	構成比(%)
①役職アップ	7	3.3%
②別の看護職に転職する	19	8.9%
③引退まで現職を続ける	83	38.8%
④特に希望はなく、程々の働き方でよい	89	41.6%
⑤将来まで看護師を続けるつもりはない	5	2.3%
⑥その他	11	5.1%
合計	214	



⑥その他（記述）

- ・ 4or 認定看護師とるかで迷い中
- ・ 特に希望はなく、程々の働き方でよい
- ・ スキルアップも考えているが、他の職業も興味ある
- ・ その時々で興味のあるものや、必要だと思ったものに対して資格をとったり講習をうけたりして勉強していきたい。

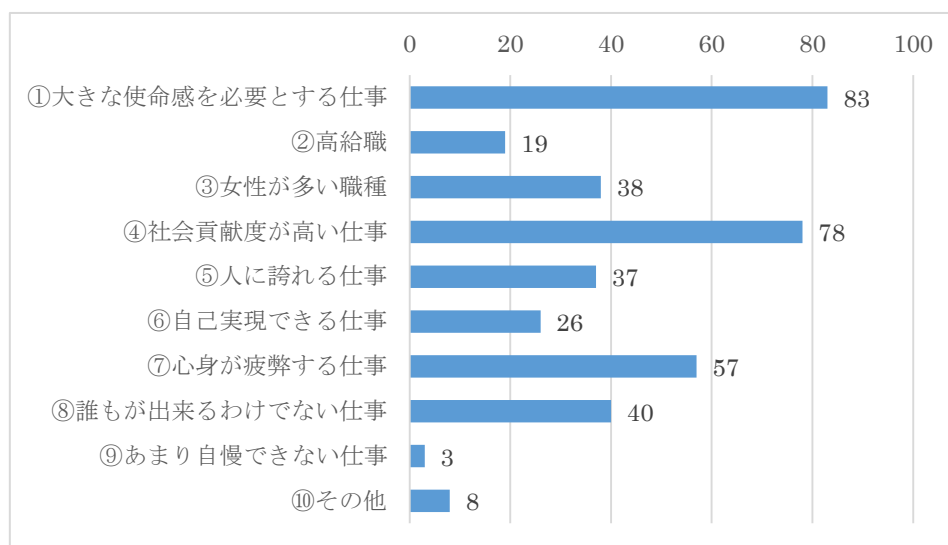
- ・ 家族とのかね合いもあり、模索中である。
- ・ 今は現職を続けようと思っている。
- ・ 資格習得や知識を深める
- ・ 大学で教員
- ・ 認定
- ・ 認定看護師など考えてはいるが自分に余裕がないため実行する事ができていない。
- ・ 認定看護師資格取得
- ・ 訪問か助産師で悩んでいる

看護師としての今後のキャリアプランは、「特に希望はなく、程々の働き方で良い」が 41.6%で最も多く、「引退まで現職を続ける」が 38.8%で次に多い。

4.4 あなたは看護師という職業をどのようなものと考えますか。〈上位2つまで可〉

回答者数（241 件）

	回答数	構成比(%)
①大きな使命感を必要とする仕事	83	34.4%
②高給職	19	7.9%
③女性が多い職種	38	15.8%
④社会貢献度が高い仕事	78	32.4%
⑤人に誇れる仕事	37	15.4%
⑥自己実現できる仕事	26	10.8%
⑦心身が疲弊する仕事	57	23.7%
⑧誰もが出来るわけでない仕事	40	16.6%
⑨あまり自慢できない仕事	3	1.2%
⑩その他	8	3.3%
合計	389	



⑩その他（記述）

- ・ 人に誇れる仕事 ⑧誰もが出来るわけでない仕事
- ・ もっと高給職でも良いと思程、大変かつ責任のある仕事であると思います。
- ・ やりがいがある
- ・ 職に困らない職業
- ・ 人間を理解する職業と思っている

- ・責任が重い仕事
- ・直接的に役立てるやりがいのある仕事
- ・離職してもすぐ再就職できる

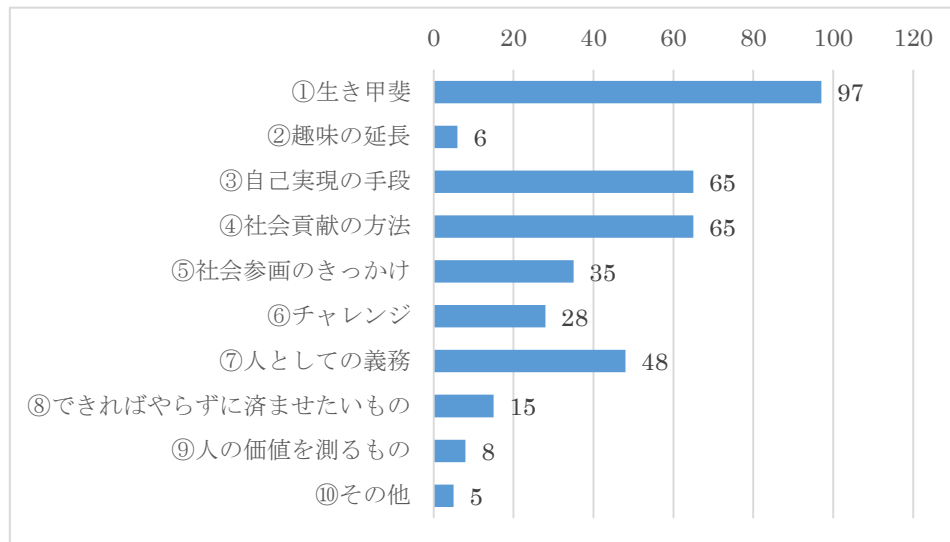
看護師の職業については、「大きな使命感を必要とする仕事」34.4%、「社会貢献度が高い仕事」32.4%、「心身が疲弊する仕事」23.7%の順に多かった。

4.5 職業は一般に、生計を立てる手段にもなる他、人にとってどのようなものと考えますか。

〈上位2つまで可〉

回答者数（241 件）

	回答数	構成比(%)
①生き甲斐	97	40.2%
②趣味の延長	6	2.5%
③自己実現の手段	65	27.0%
④社会貢献の方法	65	27.0%
⑤社会参画のきっかけ	35	14.5%
⑥チャレンジ	28	11.6%
⑦人としての義務	48	19.9%
⑧できればやらずに済ませたいもの	15	6.2%
⑨人の価値を測るもの	8	3.3%
⑩その他	5	2.1%
合計	372	



⑩その他（記述）

- ・ストレス解消
- ・世の中の見方を測るもの
- ・生きざま

職業観では、「生き甲斐」が 40.2%で最も多かった。次いで、「自己実現の手段」と「社会貢献の方法」がともに 27.0%で並び、「人としての義務」19.9%と続く。

4.6 看護師という職業や、看護師としてのキャリア形成等について、ご意見等を自由に記入してください。

（自由記述）

<看護職に必要なサポート>

- ・看護師をずっと続けるには難しいことが多い 結婚出産育児、夫の転勤などで仕事の持続が困難 母親は子どもにとって人格形成もたいせつなことなので 30代40代の同僚が離職するケースを見てきました。 持続、両立できる環境、条件など配慮が必要と思われた。
- ・看護師は精神的なフォローがもっとあったほうが良いと思う。 精神的にまいってしまって休職したことがあるので、もっとカウンセリング等サポートが必要だと思う。

- ・現在から自分が学生であった頃から重要はかわらない環境であるが、若い世代と職場を共にして、考え方や表現力の違いが思い知らされる。離職は悪い事ではないが、復職をサポートできる方法・手段が確立されてもよいと思います。
- ・自分は准看の為にできる事の制限が出たりしたので、就職先に国試を受けられるようなキャリアUPの体制があって進学できるようなシステムがあったり、専門看護師等の資格がとれたりできたら良いと思う（子供の預け先に困った時は、託児室がみてるシステムがあるとなおよい）
- ・同じ資格を持つ看護師でも教育を受けた場所によって、学習内容や教育理念など違いがある。再雇用の際に統一できるよう支援は必要であると思う。
- ・看護師とは誰もがなれるものではないと思う。人の命を預かる仕事であるから学生の間にそれを理解してほしい。現場に出てから立ち止まるのでは厳しい。女性であるからこそ、家庭や育児があるのでお互い様の心を忘れず、休みをとりやすい環境であるようにして行きたい。そうしてほしい。
- ・看護師と言っても、病棟勤務、外来勤務、その他色々な専門分野があり、幅広い。一度離職したら同じような内容の仕事につくかわからないため、常に勉強が必要。また、病院により技術のやり方、物品も違うため転職したら最初はとまどう事も多い。もっと、すんなり転職できる環境があれば育児などで一度離職してからも再チャレンジしようと思えると思う。また、まだまだ女性が多い職場なので、育児中、子供の病気、行事等で休暇が必要な方が多いと思います。もっと有休や人員などを考慮してほしい。
- ・看護師の資格を取る時、学校は一本化にして欲しい 准看の廃止は絶対必要。准看でも仕事は皆同じにしている現状 私は准看ですが、これから看護師になる人には是非、正看に行くように（行ける過程）して欲しいものです
- ・結婚し、出産育児等で環境が変わってしまっても看護師を続けたいという考えを持っている場合は、勤務体制にゆとりが十分にとれている体制が好ましいと思います。夜勤の有無・夜勤回数・休日出勤の有無・回数によっては、家庭での役割に大きな影響変化が生じてしまうと思われます。
- ・看護師の仕事は病院勤務以外にも自分のライフスタイルに合わせて多様にあるため、子育て中でも働きやすいと感じます。ただ自分のキャリアアップを目指したいと考えても、家庭の事情（結婚や出産・子育てなど）により周りの協力が無いと難しいなと思います。

- ・全てが出張扱いで通えるなら、また全国に何校ではなく、もっと学べる学校が近くにある通えるなら 通信でもよいなら、もっと進学してキャリア形成したい人は増えるのではないのでしょうか 今の状況ではごく一部の人がしか難しいと思います
- ・施設の方針、指導者によって変わってしまう。 100点満点が無くクリティカルシンキングで行われるので精神面での負担も多い。 新人の負担が大きくなりやめてしまうこと教育、指導体制の整備は急務
- ・看護管理、マネジメントなどを一般スタッフが学ぶ機会が無く、また学ぼうとしても一般スタッフでは敷居が高い現状があります。 研修の人数も少ないため、病院内で選ばれた人が複数年待って研修に行く状況を改善していただきたいと思います。

<キャリアアップについて>

- ・1人1人目標は異なると思います。 働きやすくなってきており、キャリアアップもはかりやすくなってきたと思います。キャリアアップとは何なのか、それぞれであり、また課題でもあると思います。
- ・キャリアアップの為に費用や病院の勤務に対するフォローが重要だと思う。
- ・これからは、ただの看護師の資格を持っているだけでなく、認定看護師の資格を取得したり、特定行為研修を受けたりとキャリアUPをはかり、より専門性を高めた看護師の育成が必要となっている。 私もそういったことも視野に入れています。
- ・看護師のキャリアアップには、とても興味あるが、現実的には余裕がないのが実情。
- ・認定があっても、なかなか評価を満たせず・・・ 年月が過ぎゆく職業実務も公平に評価が難しい様に思う。 しかしながら、これから組合化し看護のなにか1つ長けることで社会からの評価があれば楽しく、リスクな仕事とだけと 考えることもなくなる気がします。 楽しく職業を全うできればキャリアにおいても進展が望めそうと考えます。

<今後も看護職を続けたい>

- ・NSとして患者さんから本当の信頼を得るには、精神的援助ができ、かつ技術も伴う必要がある。 そう考えるとある程度のキャリアは必要で、その上で信頼してもらえる看護が提供できると考える。 NSの仕事として、19年程になるが、経験を重ねる事にこの仕事が面白くなり、身体が動くかぎりはこの仕事を続けたいと思っている。
- ・看護職はやはりやりがいという意味ではダントツ一位の職業だと思います。 いくつになってもいろいろな形や場所でその職業を全うできます。 これからもその需要は多くなります。 自分が学ぼうとする限り、エンドレスで勉強できる分野でもあると思います。

そして誇れる仕事だと思い、プライドを持ってこれからも看護師をしていきたいと思えます。

<離職・復職について>

- ・現代の医療も進歩しているので、看護師のキャリアアップと専門性を発揮しモチベーションを上げるためにも、転職は良いきっかけだと思います。他の人達にふれることでいろいろな考え方も吸収でき良いと思います。
- ・私は、約 10 年間のブランクがあり再就職しました。職場の方々がとても親切、ていねいに指導してくれたおかげで今に続いています。勉強会などもあり、積極的に参加する事で何かと今の医療に付いていくことができました。(今もちろん勉強中ですが・・・) 看護師しか仕事はした事がなかったので、他の職業などにつくこともなかったです。やはり、再就職するのはハードルが高いです。が、仕事を始めてしまえば看護の基本は昔と変わらないと思っているので、ナースの免許を持っている人は再就職にチャレンジして欲しいと思います。

<看護職のやりがい>

- ・キャリア形成については、正直あまり興味がないです。現場で Pt と関わるのが好きなので、今の様に働いていきたい。大変で汚い職業ではあるけれど、私的にはそれ以上のやりがいを感じています。
- ・看護師という職業→大変だけどやりがいはある。現在、3 人（6 才 5 才 3 才）の子供を子育て中。何か資格等や勉強会にも参加したいという気持ちはあるが、家庭に影響がでてしまうのではないかと不安もある。(子供の迎え、夫への負担の増大など) もう少し、子供たちが大きくなったら今後のキャリアについて考えたい。
- ・看護師は社会貢献が出来、やりがいのある仕事だと思う。医療は日々進化しているため、知識も必要となり技術の向上も必要になるため、学習が必要である。
- ・夜勤など身体的、精神的にもつらいことが多いがやりがいのある仕事。

<後輩へのアドバイス等>

- ・昭和 30 年代に准看護師になった時は右も左もわからず夢中で仕事をしていました。その時代の事を考えると今の医療が発達しているのでびっくりします。以前の事をいろいろと話をする昔の人はと言われますが、時代によってその都度の医療によって勉強が必要なのかと思います。いろんな科に携わってきましたが、特に産科は感動がありました。無

事出産した時の感動は大きかったと思います。若い皆様はこれからの時代に成長してください。

- ・親をみたり、子供さんがいる人は時間的に勉強するのは難しいと思うが、キャリアをつまないと仕事についても単調になり、仕事が面白くなってくる。後から考えても遅いのでキャリアはどんどん時間を惜しまず作ってキャリアUPしてもらいたい。
- ・看護系大学が増加しており、看護師も幅広く知識をつけ自分に合った専門的な分野を学べると、より仕事がやりがいのあるものになると思う。進学するにしても臨床での経験は不可欠だと思う。学んだ事を実践する事が重要であるとする。

<看護職という職業について>

- ・命をも左右する職業のため、緊張して接する職業と感じています。
- ・社会貢献と言うより段々と精神的にも肉体的にも厳しさを感じます。
- ・看護師はやりがいがあると同時に、とても責任の大きい職種だと思います。育児と両立しながら短時間で働ける環境に感謝すると共に、受け持ちをしない為に生じる、情報不足と、色々思いながら働いています。
- ・看護師は女性に向いているし、生涯うまく使える仕事だと思う。結婚後、育児中でも家庭と両立しながらある程度の収入が見込め便利だと思っている。しかし心身共に負担が大きく、もっと給与がほしいと思うことがある。その為にキャリアアップや役職アップ、起業が必要であり、ライフステージに合わせ、自分の進路を合わせていくことで看護の仕事はとても楽しく続けられる仕事だと思う。

<看護職になって良かったこと>

- ・看護師の職業について自分や家族の為に役に立つことが大いにあった。看護師として働けて良かった
- ・いろいろな面で成長できたことがとても良かったと思っています。
- ・資格とはとてもすばらしいものだと思います。プロフェッショナルとして、実にキャリアをつめればと思います。

<働き方について>

- ・どんな立場でも部署でも、その人が一生懸命働ける場所であれば OK なのだと思います。

・家族第一と考えているので、現在より高いキャリアへ進もうとは考えず、仕事と家庭で両立できるような働き方をしたいと考えています。

・看護師の仕事は楽しい面もありますが、大変な面もあるので自分らしい看護師になればいいと思います。日々患者と関わりながら充実した毎日を送りたいです。将来は興味のある分野をきわめて専門の資格をとればいいと思っています。

・自分が得意な分野で能力を身に付けて看護師として社会に貢献し、自分が生きる価値があるのか人生の目標を見つけて行きたいと思っているが、家族や子育て、親の介護などバランス良く生活できるか不安に思うことが多い。 周りの環境によって自分がこの仕事でどれだけ力を注ぐことができるか左右されると思う。

<その他>

・学生の頃から看護管理を学んだり、就職後のキャリアや本人の希望を徹底的に意識する時間をもつことが必要ではないかと思う。生計を立てる手段として看護師という職業を考えているだけではもったいない。そこに社会貢献、社会参画の必要性を感じ、そのための自己研鑽を重ねることができる人材を多く産み出すことが重要だと思います。

・長きに渡り、働く事の出来る職業と思っているが、年齢により目標やモチベーションは変化していくものだと感じている。 自らのやりがいや、自分のスキルアップだけに視点をおきすぎていると、組織人としては働くのがつらく感じる人達も多いのではないかと考えている。 自分のやりたいことだけを貫く（認定など）人ばかりではなりたない。 ジェネラリスト達の位置づけの低さに違和感を感じる。 実際に病院機能をささえているのは、この層の人達であるのに。

・職業倫理やキャリア up に対する意識を形成するにあたり、専門学校や職場での新人教育の場での学びが大きいと思う。 その後の看護観や職に対する意識にもつながると思うので、とても大事だったと振り返ってみると感じました。

・キャリアを多種に積むことだけがすばらしい訳でないと思う時もあり、 生涯ジェネラリストもいるだろうし、患者さんが評価するのは Bed サイドナースだと思う。初心に帰る思いを持ち続けられるか看護師として忘れないでいたい

・看護師とはという狭い職業意識ではなく広くとらえて、人間の成長過程の最終は人間形成であると思う。最終目的に向かって日々努力していくのみである。それがつまりキャリア形成へとつながると思う。

2.3 【調査②】医療職向けの研修に関する事例調査

【調査②】は、医療職向けに実施されている研修に関する事例調査である。この調査仕様・調査内容・調査結果を以下に報告する。

2.3.1 調査仕様

まず、本調査の目的・対象・手法等の仕様は以下の通りである。

調査名	医療職向けの研修に関する事例調査
調査目的	医療職向けに実施されている研修の事例を収集し、研修の方式や受講者のサポート方法などについての参考資料とする
調査対象	全国で実施されている医療職（看護師に限定しない）向けの研修事例 20 件程度収集予定 →20 件収集
調査手法	インターネットや文献等を用いる

図表 4 【調査②】調査仕様

次に、本調査の質問項目概要は、以下の通りである。

実施主体
対象者
対象者の要件
講師の職業や経験等
学習目標
教育内容
教育方法
使用教材
e ラーニングの使用有無
受講者のサポート方法
備考

図表 5 質問項目概要

2.2.2 調査結果

本項では、前項で述べた各質問項目によって整理した調査結果を報告する。

1 がん看護専門分野指導者研修がん放射線療法看護コース 国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策情報センター

対象職業 看護師

出典 国立がん研究センターがん情報サービス

https://ganjoho.jp/med_pro/training_seminar/nurse/radiotherapy/index.html

実施主体	国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策情報センター		
対象者	以下のすべての要件に該当する方 1) 厚生労働省が指定する都道府県または地域がん診療連携拠点病院等に勤務し、がん診療に従事する看護師で、看護師資格取得後 5 年以上の実務経験を有する方 2) 受講する研修に関する分野の実務経験を 3 年以上有する方 3) 所属施設のがん看護において指導者的立場にある方 4) 「がん放射線療法看護認定看護師」の認定を受けていない方		
対象者の要件	受講申請には所属施設長からの申請書、看護管理者の推薦書、受講希望理由書が必要 申請後、センターにて受講可否の判断有 受講が決定した場合、事前課題（現状課題や問題点について）を記入の上研修初日に持参		
講師の職業や経験等	不明		
学習目標	がん放射線療法看護の専門的知識と効果的な指導方法について理解を深め、所属部署や施設のがん放射線療法を受けるがん患者と家族の QOL 向上を目指した主体的な療養生活を支援する能力を高める		
教育内容	時間	方法	テーマ
	1 日目		
	10:00～10:20		オリエンテーション
			自己紹介

	10:20～11:40 (80 分)	講 義	がん放射線療法看護 総論	当院の放射線治療部の概要、がん放射線療法を受ける患者の特徴、がん放射線療法看護の専門性と役割、セルフケア支援、患者と家族への心理社会的支援、安全・安楽への援助、など
	1:50～12:50 (60 分)	講 義	放射線の基礎知識	放射線の種類と特徴、放射線の人体への影響、放射線の防護、など
	14:00～15:30 (90 分)	講 義	がん放射線療法	放射線療法の種類と特徴、急性反応、放射線治療計画、根治的放射線治療、緩和的放射線治療、最新の放射線治療、など
	15:40～17:00 (80 分)	講 義	がん放射線療法後の 晩期反応	放射線療法の晩期反応と晩期障害、晩期反応に影響する因子、治療方針の決定における患者・家族とのコミュニケーション、など
2 日 目				
	9:00～10:20 (80 分)	講 義	がん放射線療法の有 害事象のケア(放射線 皮膚炎)	放射線皮膚炎のアセスメントと看護
	10:30～11:50 (80 分)	講 義	がん放射線療法の有 害事象のケア(粘膜 炎)	粘膜炎（口腔・食道・陰部）のアセスメントと看護
	13:00～14:20 (80 分)	講 義	がん放射線治療計画 の理解に基づく看護 ケア	がん放射線治療計画の理解に基づく看護ケア
	14:30～17:00 (150 分)	演 習	事例検討、発表	がん放射線療法を受ける患者の、治療計画の理解に基づく有害事象のアセスメントとセルフケア支援に関する事例検討
3 日 目				

	9:00～9:50 (50 分)	講 義	がん治療における IVR 総論	IVR の特徴、適応、手技
	10:00～10:40 (40 分)	講 義	がん治療における IVR を受ける患者の 看護	IVR を受ける患者のアセスメントと看護
	10:50～12:00 (70 分)	講 義	がん放射線療法にお けるチーム医療と地 域を含めた連携	がん放射線療法におけるチーム医療、 院内外の連携と看護師の役割
	13:10～15:40 (150 分)	講 義 グ ル ー プ ワ ー ク	効果的な指導方法	効果的な指導の基礎知識 研修で学ん だことを、効果的に自施設看護師に指 導するための方法の検討
	15:40～16:00		まとめ	質疑応答、修了証書交付、アンケート 記入
教育方法	講義、演習、グループワーク			
使用教材	不明			
e ラーニングの 使用有無	不明			
受講者のサポー ト方法	受講可否の連絡 メール 「よくある質問」の PDF あり <問い合わせ先> 国立研究開発法人国立がん研究センター研修事務局（オスカー・ジャパン株式会社内） 〒181-0013 東京都三鷹市下連雀 3-35-1 ネオ・シティ三鷹 TEL : 0422-24-6818（平日 10:00～12:00、13:00～16:00） E-mail:info-ncc-kensyu@ml.res.ncc.go.jp			

備考	実施日時 2018 年 7 月 18 日～20 日 募集人数 50 名 受講料 25,920 円
----	--

2 准看護師研修会 一般社団法人栃木県医師会

対象職業 准看護師、医療関係者

出典 一般社団法人栃木県医師会

<http://www.tochigi-med.or.jp/event/2018/02/post-536.html>

実施主体	一般社団法人栃木県医師会
対象者	栃木県の医療機関に従事している准看護師、医療関係者等
対象者の要件	同上
講師の職業や経 験等	上都賀総合病院 副院長兼看護部長 齋藤 由利子 上都賀総合病院 看護主任・退院支援専従看護師 飯野直子
学習目標	栃木県内の医療機関に従事している准看護師等の資質向上と、医師と准看護師の相互理解を図る
教育内容	講演①『人間関係を築く交渉術』 講師 上都賀総合病院 副院長兼看護部長 齋藤 由利子 講演②『在宅療養へつなぐ看護師の役割』 講師 上都賀総合病院 看護主任・退院支援専従看護師 飯野直子
教育方法	講演
使用教材	不明
e ラーニングの 使用有無	不明
受講者のサポー ト方法	担当 地域医療第一課 FAX : 028-624-5988 / TEL : 028-622-2655
備考	実施日時 2018年2月24日(土) 募集人数 100名 表彰制度 1. 本研修会を通算3回受講した者には、栃木県医師会長の『栃木県医師会准看護師研修会修了証』を授与する 2. 本研修会を通算10回以上受講した者には、10回受講毎に栃木県医師会長から表彰状・記念品を授与する

3 近年の医療安全管理について 福島県看護協会郡山支部

対象職業 准看護師

出典 公益社団法人福島県看護協会

<http://www.fna.or.jp/wp-content/uploads/2018/07/d14531f02dda9d46bf5a43b09ffdd118.pdf>

実施主体	福島県看護協会郡山支部
対象者	郡山市、田村市、田村郡に勤務または在住の准看護師
対象者の要件	同上
講師の職業や経験等	一般財団法人太田綜合病院附属太田西ノ内病院 安全管理室室長 佐藤 マチ子
学習目標	近年の医療安全管理について学び、考える
教育内容	講義 テーマ 「近年の医療安全管理について」
教育方法	講義
使用教材	不明
e ラーニングの使用有無	不明
受講者のサポート方法	「講師に対する質問があれば、事前にお受け致します」との記載あり 社会医療法人あさかホスピタル 今泉初子 〒963-0198 郡山市安積町笹川字経坦 45 Tel 024-945-1701（代表）024-945-2581（看護部直通） FAX 024-945-1721
備考	実施日時 2018年8月2日(木) 募集人数 100名 参加費 1000円（会員は無料）

4 主任のための人材育成に対する基礎知識 公益社団法人日本看護協会

対象職業 看護師

研修名 主任のための人材育成に対する基礎知識

出典 公益社団法人日本看護協会

<https://nerc-entry.nurse.or.jp/shousaiView.php?t=1549932584&cd=2018229>

実施主体	公益社団法人日本看護協会		
対象者	主任・主任に相当する職位にある者		
対象者の要件	同上		
講師の職業や経験等	京都大学医学部附属病院総合臨床教育・研修センター 内藤 知佐子 医療法人社団康心会湘南東部総合病院 近藤 美知子		
学習目標	看護管理者として看護単位における人材育成の仕組みを整え、人材が育つ職場づくりに必要な基礎的な方略を学ぶ。		
教育内容	時間	研修形態／科目名	講師名(敬称略・所属施設名)
	1 1 月 6 日 (火 曜 日)		
	9 : 30～ 9 : 40	オリエンテーション	
	9 : 40～ 12 : 30	講義・演習) ●スタッフへの教育力の向上 ・教育の問題をとらえるための 3 つの枠組み ～システム・教育者・学習者～ ・教育者の役割と心構え ・大人の学びの特徴(自己決定性、学習の資源としての経験、アンラーニングなど) ・スタッフの体験世界の把握と効果的な関わり方のコツ ・職場外での学習機会の推進・活用	内藤 知佐子 (京都大学医学部附属病院総合臨床教育・研修センター)

	●主任としての持ち味を活かしたスタッフへの教育 ・グループワーク ▶これまでの看護職としての経験からあなたの教育者としての持ち味を考えよう ▶主任としてのスタッフへの教育で工夫していることや困っていることなどを共有し、講義による学びや気づきを用いて、今後の主任としてのスタッフへの教育のあり方を考えよう ・発表 ・講師との意見交換 ・まとめ など	
12 : 30～ 13 : 30	昼休憩	
13 : 30～ 16 : 30	講義・演習) ●目指す看護を実現するための人材育成の仕組みづくり ・部署の目指す看護の明確化 ・スタッフの育成と目指す看護の実現 ・PDCA サイクルによるスタッフが育つ職場の仕組みづくり（情報収集、現状分析、問題の明確化、解決策の検討、実施、評価 など） ・スタッフが育つ職場の仕組みづくりの実際（事例紹介） ●主任として人材育成の仕組みを整える ～自部署の目指す看護の実現にむけて～ ・グループワーク ▶自部署の現状を共有し、スタッフが育つ職場の仕組みを整えるために、主任として取り組むことを考えよう ・発表	近藤 美知子 （医療法人 社団康心会 湘南東部総合病院）

	・ 講師との意見交換 ・ まとめ など
教育方法	講義・演習
使用教材	不明
e ラーニングの使用有無	不明
受講者のサポート方法	不明 神戸研修センター 〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通 1-5-1 国際健康開発センター4 階 TEL.078-230-3250
備考	実施日時 2018 年 11 月 6 日(火) 募集人数 80 名 受講料 会員 10,260 円 / 非会員 15,444 円

5 【CLOCMiP をステップアップするための研修】産科マネジメント ステップ 1 公益社団法人日本看護協会

対象職業 看護師

出典 公益社団法人日本看護協会

<https://nerc-entry.nurse.or.jp/shousaiView.php?t=1549932584&cd=2018230>

実施主体	公益社団法人日本看護協会		
対象者	産科ユニットなどで主任・主任に相当する職位以上にある者またはアドバンス助産師		
対象者の要件	同上		
講師の職業や経験等	公益社団法人日本看護協会 井本寛子 日本赤十字社医療センター 中根直子 社会福祉法人聖母会 聖母病院 山本智美 順天堂大学医学部附属 順天堂医院 廣田則子 日本赤十字社 姫路赤十字病院 太田加代 公益社団法人日本看護協会 山西雅子 京都大学医学部附属病院 中井 葉子		
学習目標	周産期医療に関わる動向をふまえ、産科管理者のマネジメント力の向上のための知識とスキルを習得する。		
教育内容	時間	研修形態／科目名	講師名(敬称略・所属施設名)
	11月8日(木曜日)		
	9:30～9:40	オリエンテーション	
	9:40～11:10	講義) ●周産期における産科管理者の役割 ・助産師を取り巻く現状と課題 ・目標による管理と助産師のキャリア開発 ・リーダーシップとマネジメント	井本 寛子 (公益社団法人日本看護協会)

		など	
	11 : 20～12 : 30	講義) ●助産実践能力と人材育成 ・人材を育てるマネジメント ・継続教育と研修プログラム ・助産師のキャリアパスと CLoCMiP® ・ CLoCMiP®レベル別年間教育研修計画の必要性 など	中根 直子 (日本赤十字社医療センター)
	12 : 30～13 : 30	昼休憩	
	13 : 30～14 : 00	講義) ●年間教育計画と研修企画の立て方について	中根 直子 (前掲)
	14 : 10～16 : 30	演習) ●実際に、年間教育計画と研修企画を立ててみよう！ ・施設が求める助産師の育成に必要な研修 ・研修企画 など	«演習支援者» 中根 直子 (前掲) 山本 智美 (社会福祉法人聖母会 聖母病院) 廣田 則子 (順天堂大学医学部附属 順天堂医院)
		講義・演習) 16 : 00～16 : 30 ●全体共有・意見交換 ●まとめ	太田 加代 (日本赤十字社 姫路赤十字病院) 山西 雅子 (公益社団法人日本看護協会)

	11月9日（金曜日）	
	9:30～10:00	講義） ● CLoCMiP®を活用した総合評価 ・ CLoCMiP®を活用した総合評価 ・ 総合評価の留意点 ・ 演習の進め方について など
	10:10～12:30	演習） ● CLoCMiP®を活用して評価してみよう！ 講義・演習） ● 全体共有・意見交換 ● まとめ
		山本 智美（前掲） ≪演習支援者≫ 山本 智美（前掲） 廣田 則子（前掲） 太田 加代（前掲） 中井 葉子 （京都大学医学部附属病院）
教育方法	講義・演習	
使用教材	不明	
e ラーニングの使用有無	不明	
受講者のサポート方法	不明 神戸研修センター 〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通 1-5-1 国際健康開発センター4 階 TEL.078-230-3250	
備考	実施日時 2018 年 11 月 8～9 日(1.5 日間) 募集人数 50 名 受講料 会員 12,852 円 / 非会員 19,332 円	

6 介護保険施設等看護研修会 I（基礎レベル）3 日間コース 公益社団法人神奈川県看護協会

対象職業 看護師

出典 公益社団法人神奈川県看護協会

<http://www.kana-kango.or.jp/training/%E4%BB%8B%E8%AD%B7%E4%BF%9D%E9%99%BA%E6%96%BD%E8%A8%AD%E7%AD%89%E7%9C%8B%E8%AD%B7%E7%A0%94%E4%BF%AE%E4%BC%9A%E2%85%A0%EF%BC%88%E5%9F%BA%E7%A4%8E%E3%83%AC%E3%83%99%E3%83%AB%EF%BC%89-2/>

実施主体	公益社団法人神奈川県看護協会			
対象者	介護保険等施設に勤務する看護職			
対象者の要件	3 日間コースは所属長推薦文が必要			
講師の職業や経 験等	神奈川県看護指導者 磯佐智子 医療法人真仁会介護老人保健施設なぎさ療養科長 石井実千代 社会福祉法人聖テレジア会聖ヨゼフ病院副看護部長 安東百合子 神奈川県看護指導者 佐藤まつ子 神奈川県看護指導者 青木幸代 神奈川県看護指導者 山中悦子 医療法人潮かげ会 秋谷潮かげ診療所理事長 下川広治 神奈川県皮膚科医会副会長ふくろ皮膚科クリニック院長 袋秀平 社会医療法人財団石心会川崎幸病院 摂食・嚥下障害看護認定看護師 竹内由紀 医療法人社団三喜会鶴巻温泉病院 感染管理認定看護師 三橋奈美江 神奈川県看護指導者 吉野広美 神奈川県看護指導者 玉谷歌子			
学習目標	介護保険施設等の看護職員として、看護職の役割、基礎知識・技術について習得し、多職種と協働した質の高いケアの提供に資する。			
教育内容	日程	時間	テーマ	講師名
	6 月 6 日 (水)	9:20～	開講式・オリエンテーション	

		9:30 ～12:30	介護保険施設をめぐ る社会の動向と看護 職の役割	神 奈 川 県 看 護 指 導 者 磯 佐智子 医療法人真仁会介護老人保 健施設なぎさ 療養科長 石井実千代 社会福祉法人聖テレジア会 聖ヨゼフ病院 副看護部長 安東百合子 神 奈 川 県 看 護 指 導 者 佐藤まつ子 神 奈 川 県 看 護 指 導 者 青木幸代 神 奈 川 県 看 護 指 導 者 山中悦子
		13:30 ～16:30	<公開講座> 高齢者の心身のアセ スメントとケア	医療法人潮かぜ会 秋谷潮かぜ診療所理事長 下 川広治
	6 月 20 日(水)	9:30 ～12:30	<公開講座> 高齢者に多い皮膚疾 患と褥瘡ケア	神奈川県皮膚科医会副会長 ふくろ皮膚科クリニック院 長 袋 秀平
		13:30 ～16:30	摂食・嚥下障害の評 価と安全な食事介助	社会医療法人財団石心会 川崎幸病院 摂食・嚥下障害看護認定看護 師 竹内由紀
	7 月 3 日 (火)	9:30 ～12:30	<公開講座> 介護保険施設におけ る感染管理	医療法人社団三喜会 鶴巻 温泉病院 感染管理認定看護師 三 橋奈美江

		13:30 ～16:30	介護保険施設での看 取りケアの基本	神 奈 川 県 看 護 指 導 者 吉野広美 神 奈 川 県 看 護 指 導 者 玉谷歌子
		16:30 ～	修了式	
教育方法	不明			
使用教材	不明			
e ラーニングの 使用有無	不明			
受講者のサポー ト方法	《問合せ》 (公社)神奈川県看護協会地域看護課 〒231-0037 横浜市中区富士見町 3-1 TEL 045-263-2933(直通) FAX 045-263-2905			
備考	実施日時 2018 年 06 月 06 日(水)・06 月 20 日(水)・07 月 03 日(火) ※3 日間 受講に関して 3 日間コース：全ての講義を受講できる。3 日間出席者に修了証を発行 する。公開講座：講座の一部を公開する。希望の講義が選択できる。 募集人数 3 日間コース：60 名、公開講座：若干名 受講料 3 日間コース：3 日間で 4,500 円、公開講座：1 講座 1,000 円			

7 感染防止対策の基本 公益社団法人神奈川県看護協会

対象職業 看護師

出典 公益社団法人神奈川県看護協会

<http://www.kana-kango.or.jp/training/training-1332/>

実施主体	公益社団法人神奈川県看護協会
対象者	看護職：新人看護職員及び初めて I C T や部署で感染に関する役割を担う方もしくは今後予定のある方
対象者の要件	同上
講師の職業や経験等	横浜市立大学附属病院看護師長 感染管理認定看護師 中村加奈
学習目標	感染防止対策を実践するための基礎的知識を学ぶ
教育内容	感染防止対策の基本 経路別感染防止対策 起こりやすい感染症とその対策 医療関連感染対策 職業別感染対策
教育方法	不明
使用教材	不明
e ラーニングの使用有無	不明
受講者のサポート方法	申込・問合せ先 〒231-0037 横浜市中区富士見町 3 番 1 (公社) 神奈川県看護協会 研修課 教育研修班 TEL 045-263-2926
備考	実施日時 2018 年 11 月 08 日(木) 募集人数 200 名 受講料・資料代 8,000 円(会員は 4,000 円)

8 助産実践能力向上研修 公益社団法人日本助産師会

対象職業 助産師

出典 公益社団法人日本助産師会

http://www.midwife.or.jp/pdf/seminar_2018/180718_event_03.pdf

実施主体	公益社団法人日本助産師会
対象者	不明
対象者の要件	同上
講師の職業や経 験等	日本助産師会会長 山本助産院院長 山本詩子 成育医療研究センター 新生児科医師 和田友香 ウパウパハウス岡本助産院 岡本登美子 さかいたけお赤ちゃんこどもクリニック院長 堺武男 聖路加国際大学 中山和弘 早稲田大学ナノ・ライフ創新研究機構 規範科学総合研究所招聘研究員 福岡秀興
学習目標	助産師の実践能力を向上させる
教育内容	助産倫理 特別な支援を要する児への授乳支援 妊産婦に関わる助産師の対応 乳幼児期のフィジカルアセスメント～母乳育児の勧めも含めて～ ヘルスリテラシーと意思決定支援 周産期栄養の次世代への影響
教育方法	不明
使用教材	不明
e ラーニングの 使用有無	不明
受講者のサポー ト方法	【お問い合わせ・連絡先】 公益社団法人日本助産師会事務局 研修課 TEL 03-3866-3055（研修会専用ダイヤル） FAX 03-3866-3064 または HP のお問い合わせフォームより
備考	実施日時 2018 年 7 月 20 日(金)～21 日(土) 募集人数 60 名 参加費 会員：

	全日 10,000 円 一日 8,000 円 非会員 : 全日 20,000 円 一日 16,000 円
--	--

9 助産師力を高めるウィメンズヘルス研修 公益社団法人日本助産師会

対象職業 助産師

出典 公益社団法人日本助産師会

http://www.midwife.or.jp/pdf/seminar_2018/180823_event_05.pdf

実施主体	公益社団法人日本助産師会
対象者	不明
対象者の要件	同上
講師の職業や経 験等	大阪府立病院機構大阪母子医療センター 母子保健情報センター顧問 佐藤拓代 日本ウェルネススポーツ大学 教授 近藤卓 吉村小児科院長 内海裕美 竹内助産院院長 竹内理恵子 上智大学成人看護領域准教授 渡邊知映 埼玉県立大学大学院研究科教授 飯岡由紀子
学習目標	ウィメンズヘルスについて学び助産師力を高める
教育内容	妊娠期から支援を要する妊婦の気づきと支援～特定妊婦を中心に～ 生まれてきてよかった～子どもがあらひのままに生きていくために私たちにできるこ と～ スマホ社会の落とし穴～子どもの育ちに必要なこと～ 思春期健康教育の実践 乳がんと共に生きる女性を支える 更年期の女性のヘルスケア—女性を生涯にわたり支えるために—
教育方法	不明
使用教材	不明
e ラーニングの 使用有無	不明
受講者のサポー ト方法	【お問い合わせ・連絡先】 公益社団法人日本助産師会事務局 研修課 TEL 03-3866-3055（研修会専用ダイヤル） FAX 03-3866-3064 または HP のお問い合わせフォームより
備考	実施日時 2019 年 1 月 18 日（金）～19 日（土） 募集人数 60 名

	参加費 会員： 全日 10,000 円 一日 8,000 円 非会員： 全日 20,000 円 一日 16,000 円
--	---

10 深めよう！ 眼鏡処方 公益社団法人日本視能訓練士協会

対象職業 視能訓練士

出典 公益社団法人日本視能訓練士協会

http://www.jaco.or.jp/gakkai_info/886/

実施主体	公益社団法人日本視能訓練士協会
対象者	公益社団法人日本視能訓練士協会会員、その他不明
対象者の要件	同上
講師の職業や経 験等	兵庫医大 五味文 杏林大 新井千賀子 近畿大 松本富美子 川崎医大総合医療センター 長谷部佳世子 日本医用光学機器工業会眼鏡部会 大嶽泰久 福井県済生会病院 富山園子 川崎医療福祉大学 林泰子
学習目標	眼鏡処方についての知識を深める
教育内容	講演会 「黄斑疾患 ～最近の知見～」 研修会 「深めよう！眼鏡処方検査」 1. 眼鏡処方検査に必要なレンズの知識 2. 小児の眼鏡処方検査 3. 成人の眼鏡処方検査
教育方法	講演・研修
使用教材	不明
e ラーニングの 使用有無	不明
受講者のサポー ト方法	HP の問い合わせフォームより
備考	実施日時 2018 年 6 月 3 日（日） 募集人数 不定

	事前登録費 会員 4000 円 非会員 7000 円 当日登録費 会員 6000 円 非会員 9000 円 JACO メイト無料 学生非会員 1000 円（当日登録のみ）
--	---

11 がんのリハビリテーション研修会 一般社団法人日本作業療法士協会

対象職業 作業療法士

出典 一般社団法人日本作業療法士協会

<http://www.jaot.or.jp/2018ganreha>

実施主体	一般社団法人日本作業療法士協会
対象者	医師、看護師、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士
対象者の要件	6 名以内のチームで申し込み 1 チームは、医師 1 名、看護師 1 名と作業療法士、理学療法士、言語聴覚士 2 名以上を必ず含む 4 名以上 6 名以内であること。 ・すでに受講経験のある者の参加も可とする。 ・この他の関連職種も、上記の職種が参加したうえでの参加は 1 チーム 6 名以内となる数であれば可能とする。 ・同一受講者が、2 日間の日程全てを受講することで修了証を授与します。 ・参加する作業療法士は、協会員であり、2018 年度年会費を支払い済であること。
講師の職業や経験等	亀田総合病院 医師 宮越浩一 大阪国際がんセンター 作業療法士 島崎寛将 国立がん研究センター東病院 作業療法士 藤井美希 大阪国際がんセンター 理学療法士 島雅晴 大阪医科大学附属病院 理学療法士 西口只之 大阪国際がんセンター 作業療法士 太千尋 ベルランド総合病院 看護師 江藤美和子 国立がん研究センター中央病院 作業療法士 櫻井卓郎 大阪国際がんセンター 言語聴覚士 橋田直 近畿中央胸部疾患センター 医師 所昭宏 大阪国際がんセンター 理学療法士 鈴木昌幸 亀田総合病院 作業療法士 近藤絵美
学習目標	平成 24 年度から推進されている「がん対策推進基本計画」を、作業療法士協会として、より一層にリハビリテーションの視点から取り組むために、本研修会を企画運営する。 1. がんのリハビリテーションについて、その課題と解決、方向性を考える。 2. がんのリハビリテーションについて、専門職種の役割を認識する。

	3. がんのリハビリテーションにおける 多職種の役割を理解し、協働・連携を図る。 4. 多施設との情報共有を図り、今後のがんのリハビリテーションの推進を図る。
教育内容	<1日目> 9:00~9:50 がんリハビリテーションの概要 亀田総合病院 医師 宮越 浩一 11:40~11:50 休憩 11:50~12:35 周術期リハビリテーションー乳がん、頭頸部がんー 国立がん研究センター東病院 作業療法士 藤井 美希 12:35~13:20 周術期リハビリテーションー開胸・開腹術、脳腫瘍ー 大阪国際がんセンター 理学療法士 島 雅晴 13:20~14:10 昼食・休憩 14:10~14:50 化学療法・放射線療法の合併症とリスク管理 亀田総合病院 医師 宮越 浩一 14:50~15:20 造血器腫瘍・造血幹細胞移植に対するリハビリテーション 大阪医科大学附属病院 理学療法士 西口 只之 15:20~15:30 休憩 15:30~16:10 転移性骨腫瘍に対するリハビリテーション 亀田総合病院 医師 宮越 浩一 16:10~16:40 ADL・IADL 障害に対するリハビリテーション 大阪国際がんセンター 作業療法士 太 千尋 16:40~16:50 休憩 16:50~17:30 リハビリテーションにおける看護師の役割(症例紹介を含む) ベルランド総合病院 看護師 江藤 美和子 17:30~18:50 模擬カンファレンス:事例に基づいて(リハビリテーション計画の作成) 国立がん研究センター中央病院 作業療法士 櫻井 卓郎 <2日目> 8:50~9:45 がん患者の摂食嚥下障害、コミュニケーション障害 大阪国際がんセンター 言語聴覚士 橋田 直 9:45~10:00 口腔ケア 大阪国際がんセンター 言語聴覚士 橋田 直 10:00~10:10 休憩 10:10~11:10 がん患者の心理的問題 近畿中央胸部疾患センター 医師 所 昭宏

	11 : 10～11 : 40 がん悪液質に対するリハビリテーション 大阪国際がんセンター 理学療法士 鈴木 昌幸 11 : 40～12 : 30 昼食・休憩 12 : 30～13 : 30 進行したがん患者に対するリハビリテーション 亀田総合病院 作 業療法士 近藤 絵美 13 : 30～13 : 40 移動、休憩 13 : 40～15 : 20 がんリハビリテーションの問題点の解決 グループワーク 担当フ ァシリテーター
教育方法	講演・グループワーク・模擬カンファレンス
使用教材	不明
e ラーニングの 使用有無	不明
受講者のサポー ト方法	一般社団法人日本作業療法士協会 事務局 がんのリハビリテーション研修会係 担当 : 山根 TEL:03-5826-7871 FAX:03-5826-7872 e-mail: ot_cancer@jaot.or.jp
備考	実施日時 2019 年 1 月 12 日～13 日 募集人数 40 チーム (最大受講者数 240 名程度) 受講費用 1 チーム ¥120,000- ※参加チームの人数に関わらず 応募多数の場合は当協会の選考基準に則り、受講を決定。受講の可否の結果につい ては、10 月 9 日 (火) ～12 日 (金) の間に代表者の連絡先メールに返信。

12 腰痛の最新知見 一般社団法人長野県理学療法士会

対象職業 理学療法士

出典 一般社団法人長野県理学療法士会

<http://ptnagano.jp/img/file129.pdf>

実施主体	一般社団法人長野県理学療法士会
対象者	理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・学生
対象者の要件	不明
講師の職業や経 験等	東京大学医学部付属病院 22 世紀医療センター 運動器疼痛メディカルリサーチ & マネージメント講座特任教授 松平浩
学習目標	腰痛の最新知見に関して知識を深める
教育内容	「腰痛の最新知見」
教育方法	講演・実技
使用教材	不明
e ラーニングの 使用有無	不明
受講者のサポー ト方法	問い合わせ先 介護老人保健施設 御所苑 TEL: 0268-22-2222 準備委員長 若林良明 宛
備考	実施日時 2018 年 12 月 9 日(日) 募集人数 40 名程度 受講費用 会員 1,500 円 会員外 PT 4,000 円 学生 500 円 (全て当日支払い)

13 日臨技首都圏支部・関甲信支部合同輸血検査研修会 一般社団法人日本臨床衛生検査技師会

対象職業 臨床検査技師

出典 一般社団法人日本臨床衛生検査技師会

<https://img01.ecgo.jp/usr/tmamt/img/180730082419.pdf>

<https://img01.ecgo.jp/usr/tmamt/img/180730082440.pdf>

実施主体	一般社団法人日本臨床衛生検査技師会
対象者	臨床検査技師、その他不明
対象者の要件	同上
講師の職業や経 験等	東海大学医学部附属病院臨床検査技術科輸血室 板垣浩行 近畿大学医学部附属病院輸血・細胞治療センター井手大輔 (代理講演) 都立駒込病院 輸血細胞治療科 森山昌彦 福島県立総合衛生学院教務部 安田広康 福岡県赤十字血液センター学術課 東谷孝徳 東邦大学医療センター大森病院 輸血部 奥田誠 三重大学医学部附属病院 輸血部・細胞治療部 丸山 美津子 都立駒込病院 輸血細胞治療科 森山 昌彦
学習目標	臨床検査技師を対象に生涯教育の一貫として、倫理の高揚・資質の向上を目指し、その生涯教育を行う
教育内容	1 日目・講義および輸血テクニカルセミナー2017 DVD 講習 1. ABO 血液型、RhD 血液型検査の注意点と異常反応時の考え方 (DVD 講習) 東海大学医学部附属病院臨床検査技術科輸血室 板垣浩行 2. 不規則抗体検査-抗体同定までのポイント- (代理講演) 近畿大学医学部附属病院輸血・細胞治療センター井手大輔 (代理講演) 都立駒込病院 輸血細胞治療科 森山 昌彦 3. 交差適合試験陽性時の対応 (講演) 福島県立総合衛生学院教務部 安田広康 4. 医療機関と血液センターの相互理解の重要性 (DVD 講習) 福岡県赤十字血液センター学術課 東谷孝徳 5. 輸血部門が知っておくべき輸血検査に影響する分子標的治療薬について (講演) 東邦大学医療センター大森病院 輸血部 奥田 誠

	2 日目・実技 (1) 血液型検査 (2) 直接抗グロブリン試験 (3) 抗体解離試験 (4) 抗体同定試験 (5) カラム凝集法による血液型検査 三重大学医学部附属病院 輸血部・細胞治療部 丸山 美津子 東邦大学医療センター大森病院 輸血部 奥田 誠 三重大学医学部附属病院 輸血部・細胞治療部 丸山 美津子 都立駒込病院 輸血細胞治療科 森山 昌彦
教育方法	講演・DVD 講習・実技
使用教材	不明 事前予習の参考図書： ①輸血のための検査マニュアル Ver.1.3.1、②輸血・移植検査技術教本、③スタンダード輸血検査テキスト第 3 版、④輸血学改訂第 3 版
e ラーニングの使用有無	不明
受講者のサポート方法	連絡先 〒143-0013 東京都大田区大森南 4-13-21 東京労災病院 中央検査部 奥嶋 博美 Tel : 03-3742-7301 (内線 1345) FAX : 03-3744-9310 (病院代表) E-mail : kensaka-2@tokyoh.johas.go.jp
備考	実施日時 2019 年 1 月 19 日～20(日) 募集人数 80 名 会員 7,000 円、非会員 15,000 円

14 診療放射線技師新人研修会

対象職業 診療放射線技師

出典 公益社団法人医療研修推進財団

<http://pmet.or.jp/kousyukai/shinjin-housha-bosyu.pdf>

実施主体	主催：公益財団法人 医療研修推進財団 共催：公益社団法人 日本診療放射線技師会
対象者	診療放射線技師
対象者の要件	免許取得後2年以内の臨床経験を有するもの
講師の職業や経験等	りんくう総合医療センター 坂下恵治 育和会記念病院 渡邊博隆 京都大学医学部附属病院 中川政幸 医真会八尾総合病院 西村健司 済生会川口総合病院 城處洋輔 鈴鹿医療科学大学 武藤裕衣 東京北医療センター 菊地克彦 公立福生病院 市川重司 上尾中央総合病院 佐々木健 東京医科大学病院 吉田和則 済生会川口総合病院 富田博信 新潟医療福祉大学 児玉直樹 東京臨海病院 藤井雅代 愛知医科大学病院 中村勝
学習目標	不明
教育内容	＜関西・1日目＞ ①チーム医療の推進と診療放射線技師の役割 りんくう総合医療センター 坂下恵治 ②患者接遇と体位変換技術 育和会記念病院 渡邊 博隆 ③医療機器の安全管理 京都大学医学部附属病院 中川 政幸 ④職業倫理と医療関係法令 新潟医療福祉大学 児玉 直樹 ＜関西・2日目＞ ⑤医療安全と感染防止（リスクマネジメントを含む） 医真会八尾総合病院 西村

	健司 ⑥気管支解剖講座 済生会川口総合病院 城處 洋輔 ⑦社会人としてのマナーとコミュニケーション技術 鈴鹿医療科学大学 武藤 裕衣 ⑧日本診療放射線技師会の生涯教育制度 愛知医科大学病院 中村 勝 < 関東・1日目 > ①医療機器の安全管理 東京北医療センター 菊地 克彦 ②患者接遇と体位変換技術 公立福生病院 市川 重司 ③ 医療安全と感染防止（リスクマネージメントを含む）上尾中央総合病院 佐々木 健 ④チーム医療の推進と診療放射線技師の役割 東京医科大学病院 吉田 和則 < 関東・2日目 > ⑤気管支解剖講座 済生会川口総合病院 富田 博信 ⑥職業倫理と医療関係法令 新潟医療福祉大学 児玉 直樹 ⑦社会人としてのマナーとコミュニケーション技術 東京臨海病院 藤井 雅代 ⑧日本診療放射線技師会の生涯教育制度 愛知医科大学病院 中村 勝
教育方法	不明
使用教材	不明
e ラーニングの使用有無	不明
受講者のサポート方法	問合せ先 〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-22-14 ミツヤ虎ノ門ビル4F 公益財団法人 医療研修推進財団 診療放射線技師実習施設指導者等養成講習会事務局 TEL 03-3501-6592、FAX 03-3501-6593（担当：井田、佐藤）
備考	実施日時 関西：2018年6月16日～17日、関東：2018年8月4日～5日 募集人数 各64～72名 受講料 会員 10,000円（資料代含む）

15 在宅医療と動機づけ面接における患者とのコミュニケーションを考える 公益財団法人
日本薬剤師研修センター

対象職業 薬剤師

出典 公益財団法人日本薬剤師研修センター

http://www.jpec.or.jp/download/kenshunintei_jpec_cohost.pdf

実施主体	主催：北里大学薬学部 共催：北里大学薬友会、公益財団法人日本薬剤師研修センター
対象者	薬剤師、他不明
対象者の要件	同上
講師の職業や経験等	北里大学医学部 新世紀医療開発センター 横断的医療領域開発部門 地域総合医療学 教授 木村琢磨 北里大学医学部精神科学 講師 澤山透
学習目標	在宅医療と動機づけ面接における患者とのコミュニケーションを考える
教育内容	第 1 回 1/12『在宅医療における新たな薬剤師の役割と可能性』 ・「在宅医療で何をみ（観・見・診）るか」 ・「マルチモービディティ時代を薬剤から考える」 北里大学医学部 新世紀医療開発センター 横断的医療領域開発部門 地域総合医療学 教授 木村 琢磨 氏 第 2 回 2/16『服薬アドヒアランスの向上に動機づけ面接を活かす』 ・「服薬アドヒアランスの向上に動機づけ面接を活かす～前編～」 ・「服薬アドヒアランスの向上に動機づけ面接を活かす～後編～」 北里大学医学部精神科学 講師 澤山 透 氏
教育方法	不明
使用教材	不明
e ラーニングの使用有無	不明
受講者のサポート方法	問合せ先 北里大学薬学部生涯学習センター事務局（北里大学薬友会内） 〒108-8641 港区白金 5-9-1 TEL&FAX：03-3448-8191

	Email : ph-llc@kitasato-u.ac.jp
備考	実施日 : 2019 年 1 月 12 日、2 月 16 日 募集人数 不定 受講料 各日 2,000 円

16 「医薬品の適正使用のための情報の収集・評価、共有化に関する研修会 -薬物治療における安全管理のために-」 公益財団法人日本薬剤師研修センター

対象職業 薬剤師

出典 公益財団法人日本薬剤師研修センター

http://www.jpec.or.jp/kenshu/jyukou/kenshunintei_tekiseishiyou.html

http://www.jpec.or.jp/kenshu/jyukou/kenshunintei_e-learning.html

実施主体	主催：公益財団法人日本薬剤師研修センター 共催：独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 公益財団法人 日本薬剤師研修センター 後援：厚生労働省 公益社団法人 日本薬剤師会 一般社団法人 日本病院薬剤師会 一般社団法人 日本保険薬局協会 日本製薬団体連合会
対象者	薬剤師、他不明
対象者の要件	同上
講師の職業や経 験等	厚生労働省大臣官房 審議官（医薬担当） 森和彦 北里大学大学院薬学研究科 教授 成川衛 厚生労働省医薬・生活衛生局 医薬安全対策課課長 関野秀人 厚生労働省保険局医療課 薬剤管理官 田宮憲一 日本製薬工業協会データサイエンス部会 部会長 小宮山靖 厚生労働省医薬・生活衛生局医薬安全対策課安全使用推進室長 江野英夫 独立行政法人医薬品医療機器総合機構 安全第二部長 近藤恵美子 東京薬科大学薬学部薬事関係法規室 教授 益山光一
学習目標	医薬品情報の収集と評価、多職種との情報共有に必要な知識の習得、さらに法令で求められる当局への報告制度などを学ぶこと
教育内容	薬局・薬剤師を取り巻く現状及びビジョン実現に向けた国の取組 厚生労働省大臣官房 審議官（医薬担当） 森 和彦 氏 医薬品開発の国際化と臨床試験データ評価の重要性 北里大学大学院薬学研究科 教授 成川 衛 氏

	医療安全情報の収集に向けた体制整備について 厚生労働省医薬・生活衛生局 医薬安全対策課課長 関野 秀人 氏 医療安全情報の共有化と地域支援体制加算の新設について 厚生労働省保険局医療課 薬剤管理官 田宮 憲一 氏 薬の副作用が副作用と呼ばれるまで -提供される副作用情報への向き合い方- 日本製薬工業協会データサイエンス部会 部会長 小宮山 靖 氏 重篤副作用疾患別マニュアルの改定について 厚生労働省医薬・生活衛生局医薬安全対策課安全使用推進室長 江野 英夫 氏 医薬品医療機器法に基づく副作用・感染症・不具合報告の現状と安全対策について 独立行政法人医薬品医療機器総合機構 安全第二部長 近藤 恵美子 氏 薬局・薬剤部の機能を活用した副作用報告の推進について 東京薬科大学薬学部薬事関係法規室 教授 益山 光一 氏
教育方法	不明
使用教材	不明
e ラーニングの 使用有無	有 http://www.jpec.or.jp/kenshu/jyukou/kenshunintei_e-learning.html ストーリーミング型配信 研修会を録画したもの
受講者のサポー ト方法	問合せ先 公益財団法人日本薬剤師研修センター jpec@jpec.or.jp
備考	実施日 : 2018 年 9 月 30 日(日) 募集人数 250 名 受講料 一般 6,480 円 (本体 6,000 円、税 480 円) 当センター個人賛助会員 5,400 円 (本体 5,000 円、税 400 円)

17 ACP（アドバンス・ケア・プランニング）のすすめ方～その人らしく意思決定するため
に～ 一般社団法人東京都医療社会事業協会

対象職業 都内医療機関従事者・区市町村職員等

出典 一般社団法人東京都医療社会事業協会

<http://www.tokyo-msw.com/events/019/20190208.pdf>

実施主体	一般社団法人東京都医療社会事業協会
対象者	都内医療機関従事者・区市町村職員等
対象者の要件	同上
講師の職業や経験等	東京慈恵会医科大学附属 柏病院総合診療部診療部長 三浦靖彦
学習目標	患者や患者家族と医療従事者との関わり方に関する知識を深める
教育内容	「東京都の医療情報の理解促進の取組」 東京都福祉保健局医療政策部医療政策課（都事務局） 「ACP（アドバンス・ケア・プランニング）のすすめ方～その人らしく意思決定するために～」 東京慈恵会医科大学附属 柏病院総合診療部診療部長 三浦靖彦 質疑応答
教育方法	講演・ディスカッション
使用教材	不明
e ラーニングの使用有無	不明
受講者のサポート方法	申込書に事前質問欄有 問合せ先 不明 事務局 東京都福祉保健局医療政策部医療政策課 医療改革推進担当
備考	実施日 : 2019年2月8日 募集人数 100名 参加費 無料

18 第2回医療機器安全管理研修会 公益社団法人日本臨床工学技士会

対象職業 臨床工学技士

出典 公益社団法人日本臨床工学技士会

<http://www.ja-ces.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/2018/10/dd628d10212ffe793227ff431fd69ff9.pdf>

実施主体	公益社団法人日本臨床工学技士会
対象者	臨床工学技師、他不明
対象者の要件	同上
講師の職業や経験等	講義1 山形愛心会 庄内余目病院 本間久統 講義2 札幌医科大学病院 室橋高男 講義3 天理よろづ相談所病院 吉田秀人 講義4 横浜栄共済病院 中川孝太郎 講義5 亀田総合病院 高倉照彦 講義6 筑波大学附属病院 吉田聡
学習目標	公益社団法人日本臨床工学技士会の発出する指針の医療職関係団体等への周知と医療機器のさらなる安全使用における活用を啓発すること
教育内容	講義1 血液浄化領域 講義2 救急・集中治療領域 講義3 手術室・内視鏡領域 講義4 不整脈・カテーテル治療領域 講義5 高気圧酸素治療領域 講義6 医療ガス及び電波の安全な利用について（仮題）
教育方法	講義
使用教材	不明
e ラーニングの使用有無	不明
受講者のサポート方法	公益社団法人 日本臨床工学技士会 JACE 研修センター（JSC） HP 状の問い合わせフォームより
備考	実施日 : 2019年2月9日 募集人数 138名 受講料 正会員 10,000円 非会員 15,000円

19 透析室 1 日体験研修 医療法人結和会松山西病院

対象職業 看護師

出典 松下志穂,竹本祥子,山内多恵子. 病棟中堅看護師による透析 1 日体験研修の経緯と成果. 看護実践の科学. 2018, vol.43, no.9, p.31-38.

実施主体	医療法人結和会松山西病院
対象者	病棟中堅看護師
対象者の要件	中堅看護師の用語の定義は、看護チームの中核としてチームを牽引する存在とし、病棟では固定チームのチームリーダー、サブリーダーの役割を担う者で、当院での経験が 5 年以上のもの
講師の職業や経験等	不明（院内研修のため院内の人材と考えられる）
学習目標	透析ケアに関する看護実践能力および、スタッフへの指導能力の向上 1 透析患者の透析前・透析中・透析後の状態を理解し、基本的知識・技術が習得できる 2 病棟での管理が、透析へどのように影響を及ぼすかを学び、患者指導につなげることができる 3 病棟看護師と透析室看護師との連携をはかり、情報共有の必要性を理解することができる
教育内容	透析専門領域の基本的知識・技術 ・透析するまでの準備 ・体重測定の実際 ・透析前、透析中の患者との関わり シャント管理 ・自己血管と人工血管 ・脱血、送血 ・穿刺、止血の実際 循環動態 ・透析中の循環動態の観察 ・体重との関係性

	生活指導 ・水分管理、食事管理 ・排便コントロールの必要性 ・検査データの見方 ・フットケア 合併症 ・循環器疾患との関係性 ・心エコーの見方 ・慢性期疾患における起こりうる合併症
教育方法	実習、グループディスカッション
使用教材	不明
e ラーニングの使用有無	不明
受講者のサポート方法	質疑応答
備考	実施日 : 2015 年～2017 年 年 2 回開催 募集人数 1 回の研修に 3～4 名 受講料 不明（院内研修のため無料と考えられる）

20 JCHO 新任管理者研修 地域医療機能推進機構（JCHO）

対象職業 看護師

出典 扇谷玲子. JCHO の看護管理者向け研修. 看護管理. 2018, vol.28, no.9, p.774-779.

実施主体	地域医療機能推進機構（JCHO）
対象者	新任看護部長
対象者の要件	同上
講師の職業や経験等	不明
学習目標	看護部長として必要な運営・経営等に関する知識と実践力を習得し、運営・経営管理能力の向上を図る。 看護部門の管理者として時代に合致した部門管理のために必要な知識を習得し、実践できる能力を向上させる。
教育内容	JCHO の運営方針等 JCHO のルール 情報セキュリティ等 医療有害事象発生後の対策 経営管理 JCHO 看護部門における運営方針 患者サービス推進課の取り組み 地区事務所の役割・連携 看護研修科の取り組み 地域包括ケア等の取り組み
教育方法	講義 グループワーク 研修受講前学習：所属施設の役割や機能、地域の基礎データなど所属施設と地域の状況についての情報収集・分析 研修受講後課題：研修を通して見えた自部署・自施設での課題を挙げ、その課題に対する対策と実践結果をレポートとして提出
使用教材	不明
e ラーニングの使用有無	不明

受講者のサポート方法	不明
備考	実施日 ：不明 募集人数 不明 受講料 不明

2.4 調査総括

本事業では、潜在看護師の復職支援モデル（社会人学び直し講座の実施モデル）を構築するための基礎資料収集を目的として、【調査①】看護師を対象としたアンケート調査、及び【調査②】医療職向けの研修に関する事例調査を行った。

【調査①】では、看護師を対象に、学び直し講座の受講ニーズや、潜在看護師が復職する上で必要としている支援内容を明らかにすることができた。実際、復職する際に希望する支援内容では、「専門技術の再訓練」「現代医療事情の講義」「復職支援について相談できる相手の設定」が多く回答されていた。休職中のブランクに不安を感じ、最新の知識や技術を身に付けようという傾向がうかがえる。

また、復職のために受講するのが望ましい講座では、「倫理学」「看護をめぐる法律と制度（最近の動向）」「医療安全、感染対策」「フィジカルアセスメント」が多く回答されていた。個別の技術よりも、看護全体に関わる内容が多く選ばれている。

さらに、復職のために受講する講座の形式では「講義形式」が多く、集合学習を受講しやすい曜日では「月～金（平日）」、受講しやすい時間帯では「午前中」を希望する回答が多かった。また、eラーニングの1日当たりの学習時間では「1時間」と「2時間」が、1週間当たりの受講日では「2日」、受講期間は「1ヵ月」の希望が多かった。比較的短時間、かつ短期間で効率的に学習したいという意識がうかがえる。

【調査②】では、研修の方式や受講者のサポート方法等についての情報を収集し、整理した。研修の方式は、「講義」や「グループワーク」が多い。「演習」「実習」を行っているものもある。eラーニングを使用しているものは1件で、研修の様子を撮影した映像を使用している。また、受講者のサポート方法では、メールアドレスが記載されているものもあるが、電話番号が記載されているものが殆どである。電話によるサポートが中心と思われる。

以上の調査結果を踏まえ、潜在看護師の復職支援モデルの構築に取り組んだ。

3 開発報告

3 開発報告

3.1 開発概要

「1 事業概要」で述べた看護師不足に関する 2025 年問題の解決に取り組むために、本事業では、現場復帰意向のある潜在看護師の円滑な復職を支援する教育プログラムを開発・実施し、専門学校が潜在看護師の掘り起こしと女性の社会参画を促進するモデルを提案した。

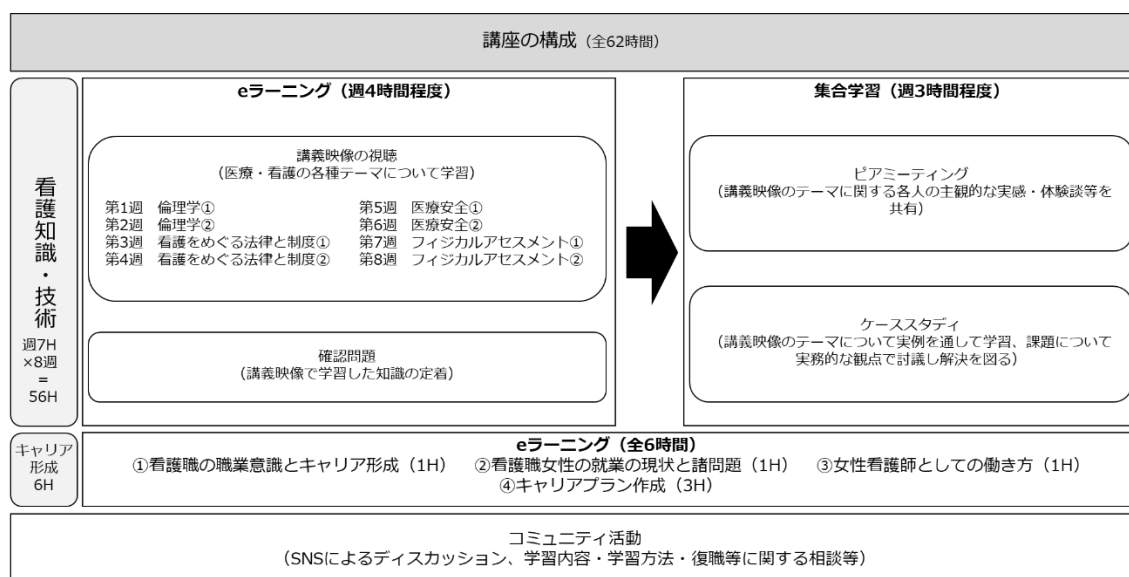
3.1.1 学び直し講座の概要

本事業で開発・実施する学び直し講座は、学校法人宮崎総合学院が平成 27 年度文部科学省 成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進事業 「看護師の新しい職域に参画する女性の学び直しキャリア教育プログラムの開発と実証」で開発した教育プログラム【実施版】(56 時間)をベースとし、調査結果や最新の動向も踏まえ、教育内容の新規追加や取捨選択を行いながら、コマシラバスや教材を追加で開発してより受講しやすい形式に再構成した。さらに、講座での学習内容だけでなく、学習方法や復職に関する内容等についても受講者が相談できるようなコミュニティ活動を支援する仕組みも取り入れた。具体

的には、女性が日常的によく利用している SNS の仕組みを活用する。この受講者のコミュニティを活用することで、口コミによって本講座の受講生を継続的に募集することにも繋がっていく。

3.1.2 学び直し講座の構成

本事業で開発した学び直し講座は、看護知識・技術を学習する部分と、キャリア形成について学習する部分とで構成される。前者は、e ラーニングを用いた講義映像視聴・確認テスト、集合学習におけるピアミーティング・ケーススタディの組み合わせを 1 つの単位とし、それを繰り返す構成とする。1 週間における学習時間は 7 時間程度で、それを 8 週繰り返し、学習時間は 56 時間程度である。e ラーニングによって学習した内容を基に、集合学習においてディスカッション形式で課題に取り組む反転学習の方式により、より実践的な知識やスキルを身につけることを狙う。なお、次項で述べように、看護知識・技術の部分は、1 つの単元を 2 週間で実施し、1 週おきに集合学習を行って全 16 週間の実施モデルも用意した。また後者は、e ラーニング上でキャリアに関する内容を学習しながら将来の看護師キャリアを検討し、最終的にキャリアプランとしてまとめるものである。こちらの学習時間は 6 時間程度である。全体の学習時間は 62 時間程度となる。



図表 6 社会人学び直し講座の構成

3.2 学び直し講座開設のための検討

前項で述べた学び直し講座を開設するために、本事業では以下の項目について検討を行った。

項目	内容等
受講者募集方法	どのような形で告知するか（ハローワーク、DM、新聞広告等）
受講対象者の条件	所持資格、勤務経験、離職期間等の条件が必要かどうか
学習目標	各科目で何をどの程度身に付けるか
講座開設時期・期間 ・集合学習の曜日や時間帯等	1 年間の内いつの時期が受講しやすいか、期間は連続 8 週間とするか、間にインターバルを設けるか、集合学習を受講しやすい曜日は何曜日か、時間帯は午前か午後か夜間か、等
e ラーニングのプラットフォーム	汎用的な LMS を使用するか、専用のものを用意するか、LMS を使用せずにホームページ形式のものを使うか、等
コミュニティ活動支援の方法	SNS に必要な機能は何か、どうしたら活発に意見交換等をしてもらえるか、等
予算	講座運営に必要な予算はどれくらいか、事業期間終了後に予算をどのように調達するか、受講者から受講料を徴収するか、等
受講者管理・サポート・評価方法	質問や相談したい受講者に対してメールや SNS の他に電話や面談等も用意するか、評価基準はどのようなものを使うか、等
復職支援方法	再就職先をどのように紹介するか、再就職先として協力いただく病院や施設等をどのように集めるか、面接や職務経歴書等の対策はどこまで必要か、等

図表 7 学び直し講座開設のために整理が必要な項目

これらの項目について、本事業で実施した 2 つの調査結果や、既存の社会人向け研修の

事例等を参考資料として、事務局や実施委員会等において検討を行った。その結果が、以下のものである。

項目	内容
受講者募集方法	ハローワーク、医療機関の協力等
受講対象者の条件	復職を志向している潜在看護師、更にスキルアップを志向している現役の看護師等
学習目標	各科目のコマシラバスに記載
講座開設時期・期間	8 週間の構成を基本とするが、集合学習を 1 週おきにして 16 週間の構成とすることも検討する。 (受講者募集時に希望をとって調整)
集合学習の曜日・時間帯	平日または土日の午前中を中心に設定 (受講者募集時に希望をとって調整)
e ラーニングのプラットフォーム、形式等	独自 Web サイトに実装 PC、スマートフォン両対応 講義映像形式を中心に、SNS によるディスカッション機能、選択式の確認問題を設置
コミュニティ活動支援の方法	前回の授業内容のポイントや、それに関する話題を事務局側から提供し、次回の集合学習でおさらいをするなど、集合学習との関係を深める
予算	講師料、会場費、資料印刷代、講座運営のための人件費等から受講料を割り出して徴収する。但し、既存の社会人向け研修とも比較し、高額になりすぎないようにする。
受講者管理・サポート・評価方法	e ラーニングのログイン情報から利用状況を確認し、あまり学習の進んでいない受講者には受講を促すよう連絡する。また、授業内容や学習方法に関する質問は基本的に SNS で受け付けるが、サポートの担当者を設置し、個別のメールや電話でも対応する。成績評価は、e ラーニング上の確認問題の他、ピアミーティングやケーススタディにおける議論への参加状況、課題レポート等により行う。

復職支援方法	受講者本人の希望により協力機関へ紹介する。但し、採用試験は協力機関にて実施する。また、求人情報の取り寄せや書類作成等の支援も、受講者からの希望があれば個別に対応する。
--------	---

図表 8 学び直し講座の実施モデル

3.3 モデルカリキュラム開発

前項で述べた学び直し講座の実施モデルで実施するモデルカリキュラムを開発した。具体的には、週ごとのコマシラバスの形にまとめた。

コマシラバスの開発する際には、本事業で実施した調査結果や既存の看護・医療系の教育プログラム等を参考とし、学習テーマや寄り詳細な学習内容を検討した。学習テーマとしては、看護師を対象としたアンケート調査で受講の希望が高かった「倫理学」「看護をめぐる法律と制度」「医療安全」「フィジカルアセスメント」を設定し、それぞれ2週に分けて実施することとした。

このようにして開発したモデルカリキュラムのコマシラバスを、以下に報告する。

【看護知識・技術】（週 7 時間×8 週 = 56 時間）

週		第 1 週	
学習時間		7 時間	
学習テーマ		倫理学① 生命倫理	
学習目標		生命倫理に関する基本的な内容を学習し、倫理的問題に気づき、解決するために何をすべきについて考えるための知識を養う。	
学習内容	e ラーニング	1.生命倫理 ・ 倫理とは何か ・ 生命倫理とは何か ・ 生命倫理と看護職の責務 2.性と生殖の生命倫理 ・ 性の生命倫理 ・ 生殖の生命倫理 3.死の生命倫理 ・ 死と医療 ・ 死についての生命倫理の課題 4.先端医療と制度をめぐる生命倫理 ・ 移植医療 ・ 再生医療 ・ 遺伝子医療 ・ 医療資源と医療保険制度	4 時間
	ピアミーティング	生命倫理に関する体験談の共有	1.5 時間
	ケーススタディ	先端医療と制度をめぐる生命倫理に関するケーススタディ	1.5 時間
使用教材		授業中に配布	
参考資料		『系統看護学講座 別巻 看護倫理』 医学書院	

週		第 2 週	
学習時間		7 時間	
学習テーマ		倫理学② 看護倫理	
学習目標		看護職に求められる倫理に着いて学習し、倫理的問題に気づき、解決するために何をすべきについて考えるための知識を養う。	
学習内容	e ラーニング	1.看護倫理 ・看護倫理とは何か ・看護の倫理原則 ・看護実践と倫理 2.専門職の倫理 ・社会に求められる倫理 ・専門職に求められる倫理 ・看護業務基準と倫理実践 3.倫理的問題へのアプローチ ・看護実践における倫理的問題の特徴 ・倫理的問題へのアプローチ 4.看護研究の倫理 ・看護職と研究倫理 ・研究における倫理的問題 ・倫理的配慮の要点 ・看護研究に必要な倫理的配慮	4 時間
	ピアミーティング	看護倫理に関する体験談の共有	1.5 時間
	ケーススタディ	小児看護に関するケーススタディ	1.5 時間
使用教材		授業中に配布	
参考資料		『系統看護学講座 別巻 看護倫理』 医学書院	

週		第 3 週	
学習時間		7 時間	
学習テーマ		看護をめぐる法律と制度① 関係法令	
学習目標		看護職に関係する法律について、最新の改正内容も含めて学習する。	
学習内容	e ラーニング	1.関係法令① ・ 看護法 ・ 医事法 2.関係法令② ・ 保健衛生法 ・ 薬務法 3.関係法令③ ・ 環境衛生法 ・ 社会保険法 4.関係法令④ ・ 福祉法 ・ 労働法 ・ 環境法	4 時間
	ピアミーティング	看護関係法令の改正に関する体験談の共有	1.5 時間
	ケーススタディ	関係法令に関するケーススタディ	1.5 時間
使用教材		授業中に配布	
参考資料		『系統看護学講座 専門基礎分野 看護関係法令』 医学書院	

週		第 4 週	
学習時間		7 時間	
学習テーマ		看護をめぐる法律と制度② 社会保障・社会福祉	
学習目標		看護職に関係する社会保障制度について、最新の改正内容も含めて学習する。	
学習内容	e ラーニング	1.社会保障・社会福祉① ・現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向 ・医療保障 2.社会保障・社会福祉② ・介護保障 ・所得保障 3.社会保障・社会福祉③ ・公的扶助 ・社会福祉の分野とサービス 4.社会保障・社会福祉④ ・社会福祉の実践と医療・看護	4 時間
	ピアミーティング	社会保障や社会福祉に関する体験談の共有	1.5 時間
	ケーススタディ	社会保障や社会福祉に関するケーススタディ	1.5 時間
使用教材		授業中に配布	
参考資料		『系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉』 医学書院	

週		第 5 週	
学習時間		7 時間	
学習テーマ		医療安全① 医療事故・医療紛争防止策	
学習目標		医療事故や医療紛争の具体的な防止策について学習し、看護の現場で活用できるようになる。	
学習内容	e ラーニング	1.医療事故防止策 ・ 問診 ・ 医療の機能分化 ・ チーム医療 2.医療紛争防止策 ・ 医療環境によるリスク － 施設能力の限界とインフォームド・コンセント ・ 医療事故と日本医師会の役割	4 時間
	ピアミーティング	医療事故や医療紛争に関する体験談の共有	1.5 時間
	ケーススタディ	医療事故や医療紛争の防止策に関するケーススタディ	1.5 時間
使用教材		授業中に配布	
参考資料		『医療従事者のための医療安全対策マニュアル』 公益社団法人 日本医師会	

週		第 6 週	
学習時間		7 時間	
学習テーマ		医療安全② インシデント・アクシデント事例、安全確保	
学習目標		インシデント・アクシデント事例に学び、看護現場の安全確保に活用できる知識を養う。	
学習内容	e ラーニング	1.インシデント・アクシデント事例 ・ 報告制度 ・ 事例分析 2.医療施設の安全確保 ・ 医療施設 ・ 災害時の対応 3.在宅医療 ・ 在宅医療の安全確保	4 時間
	ピアミーティング	インシデント・アクシデントに関する体験談の共有	1.5 時間
	ケーススタディ	安全確保に関するケーススタディ	1.5 時間
使用教材		授業中に配布	
参考資料		『医療従事者のための医療安全対策マニュアル』 公益社団法人 日本医師会	

週		第 7 週	
学習時間		7 時間	
学習テーマ		フィジカルアセスメント① フィジカルアセスメントの基本	
学習目標		フィジカルアセスメントの基本を確認し、系統別のフィジカルアセスメントの技術を高めていく。	
学習内容	e ラーニング	1.フィジカルアセスメントの基本技術 ・指診 ・聴診 ・打診 ・触診 2.系統別フィジカルアセスメントの技術 ・全身のアセスメント ・頭部～頸部のアセスメント	4 時間
	ピアミーティング	全身・頭部～頸部のアセスメントに関する体験談の共有	1.5 時間
	ケーススタディ	全身・頭部～頸部のアセスメントに関する体験談の共有	1.5 時間
使用教材		授業中に配布	
参考資料		『フィジカルアセスメントーナースに必要な診断の知識と技術』 日野原重明 医学書院	

週		第 8 週	
学習時間		8 時間	
学習テーマ		フィジカルアセスメント② 系統別フィジカルアセスメント	
学習目標		フィジカルアセスメントの基本を確認し、系統別のフィジカルアセスメントの技術を高めていく。	
学習内容	e ラーニング	1. 系統別フィジカルアセスメントの技術（続き） ・胸部のアセスメント ・腹部のアセスメント ・筋・骨関節のアセスメント ・神経系のアセスメント 2. フィジカルアセスメント結果の看護への応用	4 時間
	ピアミーティング	系統別アセスメントに関する体験談の共有	1.5 時間
	ケーススタディ	フィジカルアセスメント結果の看護への応用を題材としたケーススタディ	1.5 時間
使用教材		授業中に配布	
参考資料		『フィジカルアセスメントーナーズに必要な診断の知識と技術』 日野原重明 医学書院	

【キャリア形成】(6 時間)

週		－	
学習時間		6 時間	
学習テーマ		キャリアアップ	
学習目標		女性としての職業観を養い、看護職女性の就業に関わる諸問題を理解した上で、看護職女性としての働き方を考え、自身のキャリアプランを作成する。	
学習内容	e ラーニング (講義映像)	1.看護職の職業意識とキャリア形成 ・ 職業キャリアの意義 ・ 女性キャリアの諸相 ・ 女性看護師のキャリア形成 2.看護職女性の就業の現状と諸問題 ・ 看護職女性の就業の現状 ・ 看護職女性の諸条件 ・ 看護職女性のワークライフバランス ・ 看護職女性のキャリア形成支援策 3.女性看護師の働き方 ・ 女性看護師としての離職・休職と復職 ・ 女性看護師の新領域 ・ 復職後のキャリアプラン ・ キャリアプラン作成法	3 時間
	e ラーニング (個人ワーク)	キャリアプラン作成	3 時間
使用教材		授業中に配布	
参考資料		『女性のキャリア形成』 学校法人宮崎総合学院 平成 27 年度「看護師の新しい職域に参画する女性の学び直しキャリア教育プログラムの開発と実証」事業成果物	

4 まとめ

4 まとめ

4.1 今年度事業の成果

今年度は、3カ年の事業期間の初年度として、2つの調査、学び直し講座開設のための検討、モデルカリキュラム開発に取り組んだ。

調査は、看護師を対象としたアンケート調査、及び医療職向けの研修に関する事例調査を実施した。前者では、看護師が復職する際に必要とする支援内容や、学び直し講座に関する受講ニーズ（学習内容、学習形式、学習期間等）が明らかになった。また後者では、医療職向けに実施されている研修の授業形式やサポート方法等について情報を整理することができた。

これらの調査結果を基に、学び直し講座開設のための検討を行って実施モデルの構築を行い、学習時間 62 時間のモデルカリキュラムをコマシラバスの形で開発した。

4.2 次年度以降の計画

前項で報告した今年度事業の成果を基に、次年度以降、以下の計画で事業を推進する。

4.2.1 平成 31 年度事業計画

平成 31 年度は、以下の各項目に取り組む。

(1)平成 30 年度開発成果の改善

平成 30 年度に開発した実施モデル、及びモデルカリキュラムについて、一つの案としてさらに検討し、精度を高めていく。

(2)教材開発

学び直し講座講座の実施モデルを実施するために、30 年度に引き続き、学び直し講座で使用する以下の教材を開発する。

- ・ 講義映像

e ラーニングで配信する講義映像を撮影する。

- ・ 講義テキスト

講義映像で使用するテキストを開発する。

- ・ 確認テスト

講義映像で学習した内容を確認するためのテスト問題を開発する。

- ・ キャリアプラン作成用資料

キャリアプラン作成で使用する資料を作成する。資料には、課題や考え方を提示し、学習者が回答を記入するフォーマットを作成する。

- ・ ピアミーティング用資料

ピアミーティングで使用する資料を作成する。資料には、課題を提示する他、他の受講者の発言や討議内容をメモしたりできるような形式とする。

- ・ ケーススタディ教材

ケーススタディで使用する教材を開発する。ケーススタディ教材は、看護業務の現場を題材として状況を説明する文章と、それを基にした課題を提示し、グループによる討議内容を記入できるような形式とする。

(3)受講者評価基準開発

受講者の成績評価のために、評価基準を開発する。評価のツールとしては、e ラーニングの受講状況や確認テストの成績、集合学習での討議への参加状況、キャリアプラン等の成果

とし、これらを基に、学習目標がどの程度達成されたかを 5 段階評価等の方法で評価するものとする。より具体的には、事業を進める段階で検討する。

4.2.2 平成 32 年度事業計画

平成 32 年度は、事業期間の最終年度として、以下の各項目に取り組む。

(1)e ラーニング開発

学び直し講座の実施モデルを実施するために、31 年度に開発した講義映像、講義テキスト、確認テストとコミュニティ支援用の SNS を合わせた e ラーニングを開発する。以上により、学び直し講座で実施する教育プログラムが完成する。

(2)講座実施

学び直し講座の実施モデルを評価するために、茨城県内の潜在看護師 15～20 名程度を対象として、学び直し講座を実施する。

(3)講座評価

開発した受講者評価基準を基に、受講者の成績評価や講師からの講評、受講者アンケート等の結果を用いて講座の実施結果を評価し、課題を抽出して改善点を検討する。またその結果を踏まえ、開発したモデルカリキュラムや教材等の改善を行う。この評価結果、及びモデルカリキュラムや教材等の改善点を踏まえ、講座実施のためのマニュアルを作成する。

(4)講座実施のためのマニュアル作成

学び直し講座の実施モデルの普及を図るために、講座の実施結果を基にして、本学び直し講座の実施マニュアルを作成する。本マニュアルには、学び直し講座を実施するために必要な条件や準備すべき内容、講師の要件、受講者募集モデル、学習者評価方法、復職支援モデル等を記載し、本マニュアルを参考にすることで、他教育機関が学び直し講座を実施できるようになる。このマニュアルを広く普及させることで、学び直し講座が全国各地で実施され、潜在看護師の復職支援に活用されることが期待できる。

平成 30 年度 文部科学省

専修学校による地域産業中核的人材養成事業

学び直し講座による潜在看護師の復職支援モデル事業

成果報告書

本報告書は、文部科学省の生涯学習振興事業委託費による委託事業として、学校法人桜水会 土浦看護専門学校が実施した平成 30 年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」の成果をとりまとめたものです。

発行日： 平成 31 年 3 月

発行者： 学校法人桜水会 土浦看護専門学校

〒300-0839 茨城県土浦市滝田 1-7-3

TEL 029 (835) 3001 FAX 029 (827) 1002